

## 平成 29 年度第 1 回 豊中市総合計画審議会

【日時】平成 29 年（2017 年）5 月 12 日（金）18 時 00 分～20 時 00 分

【場所】豊中市すこやかプラザ 多目的室

### 次 第

1. 今年度のスケジュールについて
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
2. 第 4 回審議会と専門部会の振り返りについて
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
3. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画(素案)の答申案について
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
4. その他

### <資料>

- 【資料 1】平成 29 年度第 4 次豊中市総合計画の策定スケジュール
- 【資料 2-1】第 4 回豊中市総合計画審議会のふりかえり
- 【資料 2-2】豊中市総合計画審議会の第 1 専門部会の報告
- 【資料 2-3】豊中市総合計画審議会の第 2 専門部会の報告
- 【資料 3】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画(素案)の答申案



## 平成 28 年度 豊中市総合計画審議会 第 4 回会議 議事要旨

日 時	平成 29 年（2017 年）1 月 31 日（火） 18 時 00 分～20 時 00 分
場 所	豊中市役所第二庁舎 3 階大会議室
出席者	赤井委員、赤尾委員、加藤委員、國貞委員、斉藤委員、宗前委員、大澤委員、廣瀨（淳）委員、廣瀨（史）委員 計 9 名
欠席者	なし
事務局	政策企画部企画調整課：足立、福山、糸井、榎本、佐野、上野
傍聴者	12 名
案 件	1. 第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）の答申について 2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の諮問について 3. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の検討スケジュールについて 4. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（審議） 5. その他
資 料	【資料 1】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の検討スケジュール 【資料 2】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案） 【参考 1】第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）の答申書（当日配布） 【参考 2】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の諮問書（当日配布） 【参考 3】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）施策の括り 【参考 4】総合計画等調査特別委員会における「第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）」への意見について（当日配布）
会 議 録	下記のとおり

### ●開会

### ●成立要件の確認

#### 事務局

「豊中市総合計画審議会規則」では成立要件として委員の過半数の出席を必要としております。本日は委員全員にご出席いただいておりますので、成立要件を満たしております。

### ●案件と資料について

#### 事務局

（案件と資料について説明）

### ●「1. 第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）の答申について」

### ●「2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の諮問について」

#### 会長

「1. 第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）の答申について」、「2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の諮問について」、合わせて事務局よりご説明をお願いします。

#### 事務局

まず、会長から市長に「第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）」の答申をご提出いただきたいと思います。

（答申）

続きまして、市長から審議会に「第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）」の諮問をさせていただきます。

(諮問)

続きまして、市長から挨拶をさせていただきます。

市長  
(挨拶)

会長  
ありがとうございました。  
市長におきましては、他に公務がございますので、ここで退席されます。

(市長退席)

会長  
続いて、案件の3つ目に入りたいと思います。

### ●「3. 第4次豊中市総合計画基本計画（素案）の検討スケジュールについて」

会長  
「3. 第4次豊中市総合計画基本計画（素案）の検討スケジュールについて」、事務局よりご説明をお願いします。

事務局  
(資料1について説明)

会長  
専門部会は各種団体等との意見交換がメインになるということですが、ただいまのご説明について、ご質問、ご意見ございましたらお願いします。

委員  
専門部会に参加する団体はどのような基準で選定されたのかご説明いただきたいと思います。また、豊中市の場合、福祉の分野においては社会福祉協議会が全国的に高い評価を受けています。豊中市には活発に活動されている団体が多いので、どの団体に参加してもらうか、その選定が難しいことは承知していますし、事前アンケートはおそらく回答していただいているとは思いますが、個人的には社会福祉協議会にも来ていただいた方が良いのではないかと思います。事務局としてはいかがお考えでしょうか。

事務局  
事前アンケートは、社会福祉協議会にもご回答をいただいております。参加団体については、基本計画の各章に関連する分野で活動を活発にされている2、3団体を選定させていただきました。本市の社会福祉協議会は全国的に高い評価を受けており、活動内容を聞く機会も多いことから、今回、福祉の分野からは、障害者福祉の団体にお越しいただき、ご意見を頂戴したいと考えております。

会長  
選定は事務局が行われたようですが、選定基準としては「活動が活発である」というのが1つの基準になっているようです。どちらかという、いわゆるコミュニティ系よりも、アソシエーション系の団体が多いように思います。

事務局  
第1専門部会は基本計画の括りの関係上、アソシエーション系の団体が多くなっています。一方、第2専門部会では「新千里南町2丁目西自治会」「新千里北町地域自治組織」といったコミュニティ系の地域団体にお越しいただくことになっております。基本計画の第3章で地区計画などのまちづく

り、第5章で地域コミュニティの活性化などの施策を掲げているため、第2専門部会において地縁型の団体を選定させていただいております。

**会長**

事務局の説明でも、社会福祉協議会から事前アンケートの回答をいただき、ご意見やご意向などを聞いているとのことでした。第1専門部会は、8団体に来ていただくことになっており、時間が許せば、社会福祉協議会にも来ていただいて、直接お話を伺っても良いかもしれません。

**委員**

もちろん時間の問題がございまして、無理にとは言いません。ただ、豊中市において実際に地域福祉に関わっている団体として、社会福祉協議会の存在は非常に大きいものだと思います。もし可能であれば、第1専門部会に加わっていただいた方が良いかと思っております。

**会長**

社会福祉協議会に参加していただくかどうかについては一度、事務局で検討していただけますか。

**事務局**

社会福祉協議会との日程調整もありますので、一度、事務局として調整を図らせていただきます。先ほども申しましたが、事前アンケートとして、「活動から見えてきた『豊中のまちの課題』」や「課題解決に『必要な取組み』」などはお伺いしております。また、日程調整が図れなかった場合には、社会福祉協議会にヒアリングして、審議会でご報告することも可能かと思っております。いずれにしても、ひとまず社会福祉協議会と調整させていただきます。

**会長**

「資料1（別紙）」の会場イメージを見ると、ラウンドテーブルを予定しているみたいですが、各団体2名ずつ来られるという理解でよろしいでしょうか。

**事務局**

当日、基本的には、各団体1名の方にご参加いただく予定となっております。

**会長**

1名ずつのご参加ですね。了解しました。ラウンドテーブルは良いと思います。その他、ご意見、ご質問等いかがでしょうか。

**委員**

（特になし）

**会長**

専門部会につきましては、このかたちで開催したいと思います。  
続いての案件に入ります。

●「4. 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（審議）」

**会長**

「4. 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（審議）」、事務局よりご説明をお願いします。

**事務局**

（資料2、参考3、参考4について説明）

**会長**

ただいま基本計画における全体の構成、17 施策、リーディングプロジェクトを説明いただきました。また、総合計画等調査特別委員会からも具体的なご意見を頂戴しておりますので、それも参考に、意見等いただければと思います。

**委員**

総合計画等調査特別委員会の位置づけについてご説明してください。

**事務局**

今年度設置された総合計画等調査特別委員会は、市議会議員の皆さんの中で、総合計画について調査していただいている委員会で、これまでに 4 回開催しております。資料 4 は、その特別委員会で基本計画についてご意見をいただいたものを取りまとめた資料です。

**委員**

市議会議員の皆さんからの意見ということですね。

**会長**

当委員会としましては、市議会議員の皆さんのご意見もある程度踏まえながら、答申案としてまとめていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

どこからでも結構です。もし施策の抜け落ち等があればご指摘いただければと思います。章立てについては基本構想の段階である程度固められたと思っておりますので、その下位の施策あるいはリーディングプロジェクトについてご意見を頂戴できればと思います。

**委員**

第 3 次豊中市総合計画と比べて、全体としてどう変えていこうとしているのか。事務局が想定している方向性について教えてください。

**事務局**

第 3 次豊中市総合計画から大きく変わっているのは、施策の立て方です。第 3 次豊中市総合計画では、66 施策あったのですが、今回は 17 施策にまとめております。施策を細かく分けすぎると、章と施策の関連性が曖昧になり、市民の方に理解してもらいにくいという思いから、今回は 17 施策に絞り込みました。ただ、単純に施策数を減らすだけではカバーできないところもでてきますので、17 施策の下に「施策の方向性」を掲げることで対応しております。

**委員**

「施策の方向性」で、前回の 66 施策をカバーしているということですか。

**事務局**

「施策の方向性」が前回の 66 施策に対応しているという構成になっております。もう一つの変更点は、「選択と集中」の考えから、リーディングプロジェクトを掲げたことです。

**会長**

66 施策から 17 施策になっても、掲載されている領域的には変わっていないということですね。事務局としては総合計画のスリム化ということは考えていますか。

**委員**

総合計画ですので、網羅性も必要かと思えます。

**事務局**

事業が完了したものについては削除した箇所も当然ございますが、基本的に市の取組みは網羅的に記載しております。ただ、総合計画等調査特別委員会からもご指摘がありましたが、表現については、ニュアンスを読み取りづらくなっている箇所もありますので、その点につきましては検討していきたいと考えております。

**会長**

これまで網羅的にやってきたものを、「選択と集中」の視点で、取組みを絞り込んでいくということは考えているのか。もちろん絞り込まないということであれば、それはそれで結構なのですが、その点につきまして、事務局としての方向性をお聞かせいただければと思います。

**事務局**

事業が完了していないものについては、継続的に取り組んでいこうと考えております。ただ、「選択と集中」という意味で、重点を置くものについては、それが分かるように示していきたいと考えています。

**委員**

外部の人間は全体の構成を見ますが、市民や市民団体等の方は自分に関連しているところを重点的に読まれると思いますので、やはりきめ細かく網羅しておくことは必要だと思います。

**会長**

他にいかがでしょうか。

**委員**

構成としては第3次豊中市総合計画と比べて、非常に分かりやすくなっていると感じます。「子ども・若者」に重点を置いているということも分かりやすいですし、リーディングプロジェクトを出しており、全体としてメリハリがあって、バランスがとれているように思います。

意見としては、施策とリーディングプロジェクトについて、それぞれ1点ございます。

まず施策についてですが、「2-1 自立生活支援の充実」に高齢者介護や障害者福祉など、行政の予算のかなりのウェイトを占める分野が入っているように思います。また「2-1 自立生活支援の充実」と「2-2 保健・医療の充実」の分け方に関連するのですが、今は保健、医療、福祉、教育などの分野が協力・連携しながら包括的に対応していくというのが時代の潮流としてあるかと思います。しかし、現段階ではそうした包括的な視点が盛り込まれていないように思います。

リーディングプロジェクトですが、p.52にあるように「まちへの愛着を感じている人と住み続けた人と思っている人の割合」を地域別で出すことに少し疑問を感じます。地域別というよりもむしろ、南部の経年変化の方が、南部の人たちの愛着度や定住意向の増減が分かり、その評価が出来るので、南部の実情がより明確になるように思います。地域別よりも南部の人たちの気持ちの変化を捉えたほうが掲載するグラフとしては効果的ではないでしょうか。また、「南部地域の人口推移」で南部の人口減少の状況はよく分かるのですが、それがなぜ起こっているのか、原因についての分析への言及が弱いように思います。原因として、まちへの愛着度を想定しているのであれば、違和感を感じずし、無理にこじつけたかのように捉えられる危惧があるかと思います。

**会長**

「2-1 自立生活支援の充実」と「2-2 保健・医療の充実」の分け方については、難しいところだと思います。2-1と2-2は連携したほうが良いというご意見ですか。

**委員**

どういうふうにしたら良いのか、まだ具体的な代案はないのですが、やや縦割りになっているような印象を受けます。現場では分野間の連携や包括的な対応が求められていますので、それをどう表現するかというのが問題かと思います。

**会長**

今のご意見に対して、事務局、いかがでしょうか。

**事務局**

2-1と2-2の分け方については、事務局としても試行錯誤した結果、現状のかたちに落ち着いたという経緯があります。今後「地域包括ケア」が重要になってきますし、本市では介護保険事業計画の中で、地域包括ケアの考え方などを示しています。ただ、地域包括ケアにつきましては、本市の基本方針を、現在議論し策定を進めていて、その動きも踏まえながら、施策の分け方あるいは見せ方について

て、検討を続けていきたいと考えております。切れ目ないサービス、福祉を展開していかないといけない中で、施策としてどう出していくか、引き続き、検討させていただければと思います。

#### 会長

もう1点、リーディングプロジェクトのデータについてはいかがでしょうか。南部地域では出ていく人が他の地域よりも多すぎるということが問題となっており、その原因を愛着がないからというのは適切かどうか分かりません。ただ、住み続けようとは思わないのは確かであり、愛着や住み続けるだけの魅力が南部地域にはないということだと思います。このロジックは、100点満点ではないけど、60点くらいはあげてもいいかなと思います。

#### 委員

南部地域の人口減少は、社会減、自然減のどちらが要因としては大きいのでしょうか。

#### 事務局

社会減が大きな要因だと考えております。南部地域から他の地域への流出が多く、南部地域の人口減少につながっています。

#### 委員

私は南部地域の土地勘がないのですが、お話を聞いている限り、ご高齢の方が非常に多くて、新しい人が入ってこない。そして、ご高齢の方が亡くなることも増えている。そういう状況かと思っていたのですが、流出も多いということですね。

p.52の掲載データでは2015年の数値は61.1千人でしたが、補足資料では58.5千人になっていますが、想定以上に人口減が進んだのですか。

#### 事務局

出生率や移動率などを加味して推計値を出していたのですが、想定以上に社会減が大きかったと思います。

#### 会長

南部地域の空き家率はいかがでしょう。

#### 事務局

地域ごとの空き家率は把握できていませんが、市全体では15%程度となっております。空き家を一軒一軒調査できないので、モデル地域を調査して、その結果から推計値を算出しています。

#### 会長

南部地域では、将来的に空き家が最大の問題になってくると思いますので、地域ごとのデータが出せるようでしたら、出していただきたいと思います。

#### 委員

会長にお伺いしたいのですが、空き家を放置し続けると最終的にどういった問題が発生することが想定されるのでしょうか。最悪のシナリオとしてはどういうことが起こり、どんな対策が必要になるのでしょうか。例えば、極端に地価が下がり続けてしまったが故に、かえって開発が進んだりすることもあるのでしょうか。

#### 会長

南部地域は、接道要件を満たさず、新築できない場所が多くあります。ご存知のように、空き家を放置してしまうと、不法投棄などの荒廃や、防災・防犯上もよろしくありません。東京の世田谷では、区が土地を買い上げ、公園にするといった事例もあります。

#### 委員

公的な地上げということですね。

**会長**

しかし、そのようなことができるのは、お金持ちの自治体だけであって、多くの自治体はなかなかできないかと思います。空き家が市場に乗らないというのも問題ですし、市場に乗って、なおかつ建て替えができれば良いでしょうけど、それもできない場合も多く、当面は放置せざるを得ないのかもしれないかもしれません。空き家や空き地を束ねて管理できるようになれば、まだ開発の可能性もありますが、5年単位ではできないように思いますので、かなりの時間を要する気がいたします。

空き家問題について、豊中市は、どんなシナリオを想定されているのでしょうか。

**事務局**

本市の場合、流通空き家が7割程度を占めており、市場に乗っている空き家も多いのですが、今後は管理不全の空き家が増えてくる可能性があるかと想定しております。本市としましては、まだ件数は少ないものの、空き家の所有者と空き家を使って何かしたいという方のマッチングなどもしております。少しでも空き家を増やさないような取組みを進めていきたいと考えております。

**会長**

庄内の住環境整備事業は40年以上前から取り組まれていて有名です。木造の密集市街地を整備する取組みで、何十年も取り組まれてきて、都市計画道路ができたり、長屋などが不燃化したり、公共住宅の建て替えや耐火なども行われたりしています。しかし面積率としてはまだ少ない状況で、全域を整備するには100年や150年かかるように思います。人口減少が進んでいる中、空き家も増えていくとなると、投資効果が薄れますから、住環境整備自体ができなくなってくる可能性もあるわけです。だからこそ南部地域をリーディングプロジェクトにして、ハードとソフトの両面から取り組んでいこうということだと思います。南部地域を重点的に取り組むことで、豊中市のイメージアップにつながり、結果的には北部地域の方にもメリットがあるというストーリーが描けると良いのではないのでしょうか。

リーディングプロジェクトについてのご意見等がございましたらお願い致します。

**委員**

リーディングプロジェクトで南部を取り上げたのは良いと思いますが、市民が見られたときに、「なんで南部だけ取組むの」と思う人も多いように思います。どういう理由で南部を取り上げたのか、説明を入れておいたほうが誤解を招かないように思います。p.1にも「重点的かつ総合的に取り組む事業を『リーディングプロジェクト』として位置付けます」とは書かれているのですが、もう少し詳しく、例えば、先ほど会長が言われたように、南部の課題を解決することによって、豊中市全体の価値が上がるといったようなことなどを追記されたほうが、市民としてもリーディングプロジェクトを応援しやすいように思います。

また、南部は高齢化率も上がっているということですが、それを弱みとして捉えるのではなく、逆に強みとして捉える発想の転換があっても良いのではないのでしょうか。例えば、お年寄りが住みやすいまちとして打ち出していく。お年寄りが住みやすいのであれば、若い世代も安心して暮らせるまちだと思うでしょうし、そういう切り口で若い世代を誘導していくことも可能なように思います。必ずしも高齢化率の上昇を悲観的に捉えなくても良いのではないかと思います。

**会長**

p.52にどういったデータを乗せるか。地域イメージ調査は広域的にやると使い勝手は良いのですが、測地的にすると公表できない場合が多いので、その点は配慮すべきかと思います。

南部地域の人口減少率が他の地域と比べても著しく高いのは、看過できない問題だと思います。

**事務局**

リーディングプロジェクトの位置付けや南部地域の発展が市全体の活性化に寄与するという点につきましては、p.52でも触れています。南部地域の複雑化している課題の解決をめざすことによって、市全体の価値を向上させるなどの波及効果を狙いたいというのが事務局としての考えです。高齢化率が上がっていますが、高齢者の方が働ける場としても南部地域は魅力的な場所だと思っております。高齢者の方のコミュニティづくりや、若い人たちが暮らしたくなるようなまちづくりをしていければ良いと考えております。

**会長**

その他、いかがでしょうか。

**委員**

南部地域活性化プロジェクトですが、豊中市による公的な取組みだけで成果をあげるのは難しいかと思えます。なんらかの民間資本の投資、特に大手企業による経済投資も考えておく必要があるのではないのでしょうか。その点については事務局として、いかがお考えでしょうか。

**事務局**

今後の民間投資をにらんで、3月に企業フォーラムを開催する予定です。民間との協働によるまちづくりを進めていくというのが、これからのキーポイントだと思っており、なるべく民間の方にも情報を発信するとともに、地域の方の協力もないとまちづくりは進んでいきませんので、市民、事業者、行政が協力しながら、南部地域のまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

**会長**

p.52に「多様な主体との連携や民間活力の効果的な活用を図りながら」とありますが、この文章に民間資本は想定されているのでしょうか。民間活力にはいろんな意味があって、資本もあれば、労力や知恵などもあります。

また、神崎川の大阪市側が今、大きく変わりつつあります。大規模な区画整理を行い、新しいマンションができており、ほとんど即完売状態だと聞いています。昔、人の流れは、大阪市から豊中市へ流入していたのですが、これからは豊中市から大阪市へ流出する可能性がありますし、実際にそういう現象も起こりつつあるかと思えます。

**委員**

現状として、南部地域の人どこに転出しているのか分かっていますか。

**事務局**

南部地域ではやはり大阪市への転出が圧倒的に多く、吹田市や尼崎市への転出も多くなっております。また、域内移動についても、転出超過という状況となっております。

**委員**

これまで協議してきた内容が反映されているように思います。南部地域が抱えるような課題は、豊中市だけでなく、日本全国で噴出している課題だと思います。ものすごい勢いで世の中は変わっていますが、理屈ではなく、実際にやってみる、行動を起こしてみることが大事です。理屈をこねていても、課題は解決しません。「これは良い」と思える取組みがあれば、すぐに行動を起こすことが一番大事だと思います。行動を起こせば、子どもも変わってきますし、高齢者も変わってきますし、まちも変わってきます。私は南部地域で操業してきましたが、良い変化も悪い変化もずいぶんと見てきました。経験として、行動を起こして初めて理解してもらえることを実感しています。まちづくりは敵対することではなく、相互の助け合いや支え合いで成り立つものだと思いますし、それが南部にはあると思います。南部地域にはそういう資源が豊富にありますので、それをどう活かしていくかというのが重要になってくると思います。民間企業による経済資本の投資というもさることながら、どんな理念や構想を持ち、どういったことに取り組んでいくのかということを経域の方にお示しして、徐々に活動の輪を広げていくことが何よりも重要なことだと思います。リーディングプロジェクトの南部地域活性化プロジェクトはおもしろい取組みだと思いますので、ぜひ挫けずに取り組んでほしいと思います。魅力のあるまちになれば、人口も戻ってきます。

**委員**

リーディングプロジェクトの主な取組みはどれも重要だとは思いますが、南部地域の課題として高齢化率の高さや人口減少があげられている中で、若い世代をはじめとする人口の流入を促していくためには、雇用についても考える必要があるように思います。主な取組みの「にぎわいとゆとりのあるまちづくり」で、産業振興についても書かれていますが、雇用のあるところに人が集まると思っていますので、主な取組みに雇用創出を掲げてほしいと思います。

**会長**

南部地域は対大阪市の関係で言えば、すごく立地の良い場所だと言えます。川を渡れば大阪市内、雇用は近くにいっぱいあるとも考えられますので、南部地域に雇用を生めれば、南部地域の定着率が高まるとはなかなか言い切れない側面もあるように思います。15分で大阪市があるという立地条件にも関わらず、人口が減っているということも、南部をリーディングプロジェクトとして取り上げた要因の1つかと思います。もちろん雇用は重要だとは思いますが、南部地域で雇用を創出しても、地域内で雇用されるとは限りませんし、難しい問題かと思っています。

事務局はいかがお考えでしょうか。

**事務局**

南部地域の職住近接はほかの地域よりも多いというデータがあります。また、庄内駅の乗降客を分析しますと、大阪音楽大学が立地しているという要因もありますが、外から入ってきて庄内駅周辺で遊んで帰るといった人が多いというデータもあります。こうした特徴があるのは、阪急宝塚沿線では豊中駅と庄内駅の2つです。

今後の南部地域のまちの姿としては、南部地域に住んで、大阪市内等に働きに行くようなライフスタイルなのか、あるいは南部地域での職住近接のライフスタイルなのか、どういった将来像を掲げて、まちづくりを進めていくかということについて、来年度以降に「南部地域活性化構想」を策定することを予定しておりますので、その中でしっかりと検討していきたいと考えています。

南部地域には就労困難な方が他地域に比べて多いというデータもあります。そういうことを踏まえますと、長期的なまちづくりの初期段階では、南部地域に雇用を創出するのは意味があると思います。しかし、それだけでなく、ステップアップしていくことも検討する必要があると考えております。

**会長**

南部地域に着目するのは、皆さん同意されているとは思いますが、南部地域のまちづくりのあり方が職住近接になるのかどうかは今後の「南部地域活性化構想」で検討されていくということですね。

**委員**

南部地域で小中一貫教育を考えられていますか、参考として進めようとしている都市はありますか。

**事務局**

特定の都市を参考にしているということはありません。小中一貫教育というと、施設一体型のものをイメージされる場合が多いのですが、豊中市としてめざしている小中一貫教育というものは、小中の9年間を通じて、同じ教育方針のもとで子どもたちを育てていこうとするものです。具体的には、小学校高学年から教科担任制にして、多くの先生が児童・生徒に関われるような環境をつくっていくことで、教育環境と学習環境をより良くしていこうとしています。先ほど特定の都市を参考にしているということではないと申しましたが、実際には先進都市へ視察に行き、良いところを参考にしながら、小学校1年生から中学3年生までが交流できるような仕組みも構築していきたいと考えております。

**会長**

小中一貫校はメリットもありますが、地方では小中一貫にせざるを得ないという地域も出てきています。つまり児童・生徒数が減ったために、過疎対策として小中一貫校にするという文脈です。南部地域の場合、この文脈と一致しているところが少なくないと思うのですが、いかがですか。

**事務局**

南部地域には小学校の6年間、クラス替えが出来ないという学校も現実的に出てきてはいます。少人数の良さというのももちろんありますが、人間関係の固定化や、中学での限定されたクラブ活動、試合に出られないといった状況など、人数が少ないことによる弊害も出てきています。過疎対策として、小中一貫教育にせざるを得ないというような消極的な意味ではなく、もっと積極的な意味で小中一貫教育を実施しようと考えています。

**委員**

スケジュールはどうなっていますか。

**事務局**

教育委員会では、3つの中学校と6つの小学校を北校と南校の2校に統合することを考えております。まずは、北校を先行して進めようとしております。北校は平成34年開校を予定しています。

**委員**

3つの中学校と6つの小学校を北校と南校の2校に統合しても、ボリューム的に問題ないのですか。

**事務局**

問題ございません。

**委員**

学校の跡地利用についても、検討はされていますか。

**事務局**

その点は地域の方も大変、心配されているところです。学校は児童・生徒だけでなく、地域の方も使われます。また学校が統合されることによって、通学距離が長くなるといった問題もありますし、今後、検討をしていく必要があると認識しています。

**委員**

通学バスなどは、想定されていますか。

**事務局**

今のところ、通学バスは考えておりません。

**委員**

徒歩で通学するということですね。ハード整備については、いかがですか。

**事務局**

3つの中学校と6つの小学校を、全て廃校にして、新たに2校を新設するという考え方です。

**委員**

文部科学省の補助金等は、利用できますか。

**事務局**

その方向で調整を進めております。

スケジュールの詳細について、ご説明させていただきます。北校は現在の庄内小学校の場所に開設したいと考えており、平成29年度に計画策定、平成30、31年度に設計、平成32、33年度に建設工事し、平成34年度に開校というスケジュールを想定しております。

また同時に、南部地域では南部コラボセンター構想というのがあります。これは南部地域の老朽化した公共施設を複合化しようとするもので、この施設を現在の第6中学校の敷地に建設し、北校と同じく平成34年度にオープンさせることを予定しております。

**委員**

その他の廃校になる場所は、こども園への転用などを予定されていますか。

**事務局**

学校跡地の活用については、まだ具体的に決まっていません。現在、地域の方に色々なご意見・ご要望等をいただいております。これまで学校が果たしてきた役割を踏まえながら、今後検討していきたいと考えております。

**委員**

リーディングプロジェクトでは、主な取組みに「子どもたちの元気があふれるまちづくり」が掲げられているように、子どもに重点が置かれていて、子育て支援というのはかけ声だけではなく、実際的な取り組みが求められています。昨年、「保育園落ちた日本死ね」のブログが注目されましたが、そういう切実な思いを抱えている方も多いわけです。小中一貫校を新設することによって、学校の跡地が生まれますが、それを積極的に捉えて、戦略的に子育て関連施設等を設置することで南部地域の魅力を高めることはできると思います。

もちろん、全てを公的な施設にするというのは現実的ではありません。ある程度、民間資本による開発がしやすいような条件を整えることによって、外部資本が流入しやすいようにしていくことは必要ではないかと思います。どういう条件であれば、民間資本を呼び込みやすく、人が流入し、好循環を生むことができるのか、事務局として想定されているシナリオがあれば教えてください。

**事務局**

学校が変われば、地域が変わり、まちが変わるということはあるかと思います。京都市の事例では、人口も増えたということも聞いておりますし、小中一貫校を設置することで、地域に好循環を生んでいくことは見込めるかと考えております。

南部地域は古くから住環境整備事業を進めてきておりますし、同時に拠点整備も進んできた部分もあります。しかし、これまでは行政の投資が民間投資の呼び水にあまりなっていないと、大きな課題だと認識しています。今回の総合計画を策定していく中で、民間企業、特に不動産を扱われている企業5社に対して、南部地域の立地条件をはじめ、南部地域の可能性についてヒアリング調査を実施しましたが、梅田から10分という立地条件、水運、人口など、概ね南部地域のポテンシャルは高いとの評価でした。ただ、ポテンシャルは高いものの投資するきっかけがないというご意見もありました。事務局としては、今回のリーディングプロジェクトや来年度策定する「南部地域活性化構想」で、行政としての方針を示し、南部地域に民間資本を呼び込めるようにアピールしていきたいと考えています。そういう思いもあり、3月に企業フォーラムを開催しようと考えております。

**委員**

リーディングプロジェクトの中身には、異論ありませんし、ぜひ実施してもらいたいと思います。実際にプロジェクトを進めていくとなると、南部コラボセンターのような単独の事業の他にも、ルーチンの仕事がたくさんあって、課や係に割り振られて粛々と事務をこなされていくことになるのだろうとは思いますが、その進め方として、いわゆる司令塔機能を持ったところがある方向性を打ち出して、それぞれの仕事を統合していくということがおそらく重要になってくるように思います。計画策定後のことですが、計画を実行していく段階で、各課や各係の仕事をシナリオに沿ったかたちでどう統合していくか、庁内体制をどう整えるかということを考えておくことが非常に大きな意味を持つように思います。毎日決められた仕事を行うけれども、それが結果的に南部地域のためになっていくというような二重性を持たせないと上手くいかないと思います。南部地域に限定したプロジェクトというのは市全体の予算から見ると、それほど多くはないかと思いますが、ルーチンの仕事に意味を持たせていく必要があると思うのですが、その体制をどういうふうに考えていくかということが、行政に課せられた今後の課題と感じます。

**事務局**

本市ではかつて庄内再開発室があり、ハード整備を中心に整備を行ってまいりました。来年度、当課の事業として「南部地域活性化構想」を策定する予定です。リーディングプロジェクトは、前期基本計画の5年間で実施していく内容ですが、「南部地域活性化構想」はもう少し長い期間の構想にしようと考えており、場合によっては30年といった長期のまちづくりの構想になることも想定しております。来年度すぐに、南部地域のための庁内体制を整えるのは難しいかもしれませんが、ご指摘いただきました体制整備についても検討が必要だと考えております。

**委員**

先ほど、南部地域の活性化のためには民間資本が欠かせないと発言しましたが、民間投資を促す一方で、そこには一定の秩序のようなものが必要だと思います。民間による乱開発や、民間の利害関係から、地域住民が立ち退かなくてはならないような事態も生まれる可能性も否定できません。そうならないために、地元住民の合意形成を図るというプロセスが重要になってくるように思います。

**会長**

リーディングプロジェクトの内容については、委員の皆さんから一定の支持は得られたかと思えます。リーディングプロジェクト以外に、全体構成や専門部会についても、ご意見等があればお伺いしたいと思えます。

**委員**

第3次豊中市総合計画と比較すると、全体的にシンプルな文章でまとまっている印象を受けます。第3次の基本計画は施策が細分化されていて、施策間の違いが一般市民には分かりにくかったように思えますが、今回は17施策に絞られ、見やすく、分かりやすくなったように思えます。

また、施策ごとに「市民・事業者の主な取組み」が明記されていますが、これがあることによって、市民もまちづくりに関わっていかないといけないということが分かりますし、市民にはどんなことが期待されているのかということが分かりやすく整理されていると思えます。

かつて千里地域は万博などで人口が急増しましたが、その後、高齢化や若い世代の流出等で人口が減って、中学校などでは学年に1クラスしかないようなところもあったようです。しかし、そこから新しくマンションが建ち、近年は人口が増えて、まちが活気づいていると聞いています。南部地域はかつての千里地域と同じように、住居が古くなって、それと同時に高齢化も進行し、若い世代もあまり魅力を感じず、南部地域から流出しているような状況だと思えます。その結果、南部地域から北部を始めとした、新しい住宅のあるところに域内移動されている方も多いのかもしれませんが。データ上では、南部地域の方は「まちへの愛着を感じている人」が少ないようですが、私の実感としてはそんなことはないように感じています。数は少ないですが、私が実際にお会いしたことのある人は、まちを愛している方がたくさんいますし、地域のお祭も活発です。そういう側面も一方では、南部地域の特徴だと思えます。南部地域は、子育てするのに住みやすい環境もありますし、豊南市場など商業も活発で、他地域の市民にとっても魅力的な部分はありますので、そういう特性を活かしていくことで、人が増えて、今の千里地域のように地域が活性化してくれば良いと思えます。

小中一貫教育ですが、これは南部地域に限った取組みなのか、それとも南部地域でモデル的に始めて、順次、市全域に拡大していこうという計画なのか、どちらですか。また、南部地域の活性化の取組みを進めた結果、小中一貫校がマンモス校になるようなことは考えられませんか。そのあたりについて教えてください。

**事務局**

南部地域で小中一貫校を開校した後に、市域に取組みを拡大していく計画は今のところ聞いておりません。ただ、この取組みの有効性が確認されれば、モデルとして拡大していくことも検討する可能性はあるかと思えます。小中一貫校の取組みの目的は南部地域の活性化のためだけではなく、市全体の活性化のためですので、場合によってはそういうこともあるかもしれません。

**会長**

南部地域での小中一貫校の取組みを他の地域の人が羨ましがって、南部にマンションなどを購入して、子どもを小中一貫校に通学させたいと思うような人が出て来れば、この取組みが豊中市のためになったと言えるのかもしれません。

**委員**

基本計画の「現状と課題」の「市民の意識」に、平成29年度の数値を示すことになっていますが、目標値は設定されませんか。目標値とまでいなくても、上向きなのか下向きなのか、めざすべき方向性などを示しても良いと思えます。

**事務局**

事務局としましても、当初は目標値を設定することを考えましたが、議論を進めていく中で、設定した指標だけで施策全体を評価していくのは難しいという結論になりました。施策の評価につきましては、別途、政策評価の中で指標を設定し、進行管理をしていこうと考えています。その際は、市民意識だけではなく、活動指標など他の指標も設定し、複合的に評価をしていこうと考えております。

**委員**

進行管理としてPDCAをすることはあちこちでされていますが、いつまでに何をやるかということが書かれていないように思えますし、これを見て、曖昧だと感じる方もいるかもしれませんが、総合

計画の性格としては、そこまで詳しく設定するものでもないという思いもあります。総合計画の各施策の下には、それぞれ事業があると思いますし、事業レベルでは目標値等も設定されていると思いますので、そこの関係性みたいなものが分かるようになっていけば良いと感じます。

また、第3次豊中市総合計画の成功や失敗、反省などが今回の総合計画にどう反映されているのかが分かるように、何かしらの工夫をし示せれば良いなと思います。

南部地域のリーディングプロジェクトは、p.53に「主な取組み」とありますが、市域全域で行うようなこともここに書かれていますので、南部地域に限定した取組みと、市域全域で行う取組みを明確に分けて書いたほうが良いように思います。小中一貫教育は南部地域だけだと思いますが、「誰もが安全に安心して暮らせるまちづくり」に書かれていることは、南部地域だけではないと思います。

#### 事務局

まちの不燃化は、特に南部地域で進めていきたい取組みです。特有の取組みだと思います。

#### 委員

「安心して子育てができる環境づくりを進めます」というのは南部地域だけで進めるようなものではなく、豊中市全域で取組むべきことのように思いますし、南部地域で特別に取組むようなものをより明確化した方が分かりやすくなるように思います。もちろん細かい話は、「南部活性化構想」や「南部コラボセンター構想」で書かれるのかもしれませんが、今後どこで検討していくのかというのを示しても良いかもしれません。

#### 事務局

小中一貫校は南部地域で建設しますが、小中一貫教育はすでに市内全域で行っています。

#### 委員

p.52、53は南部地域活性化に焦点をあてているので、「小中一貫教育」ではなく「小中一貫校」にしてはいかがですか。

#### 事務局

表現については精査させていただきます。

#### 委員

先ほど意見がありましたが、南部地域の人口減少の要因分析から、「主な取組み」につながるような流れにした方が良いと思います。要因に対応した「主な取組み」を書くというのは難しいかもしれませんが、現段階では、小中一貫校や南部コラボセンターといった拠点施設ができることで、まちの魅力が高まり、人口が増加するといったようなストーリーだけでも良いかもしれませんが、もう少し因果関係を意識した構成にした方が分かりやすいように思います。

#### 会長

ご意見を参考に、表現は事務局でご検討いただきたいと思います。他にいかがですか。

最後に一点だけお聞きしたいことがあります。

「参考3」の施策の括りで、1-2の「社会教育」と4-3の「生涯学習」は、どう区別しているのか。

#### 委員

「社会教育」という領域は、公民館が主体となった取組みです。豊中市は1949年に社会教育法が施行されて大阪府下で初めて公民館をつくった先進的な都市として知られています。豊中市をはじめ、早い段階で公民館をつくった都市は、公民館機能が市民センターに移行されて、現在「社会教育」としては主に学校支援を行っています。子どもたちの健全な育成にどう関わっていくか、それが「社会教育」の目下の課題であり、「社会教育」と「生涯学習」を分けて書くのは良いと思います。

#### 会長

時間がきましたので、審議は終了させていただきたいと思います。

●「4. その他」

会長

最後に「4. その他」について事務局よりご説明お願い致します。

事務局

(連絡事項の伝達)

会長

ただいまのご説明に対してご質問等ございませんか。

委員

(特になし)

会長

これで第4回豊中市総合計画審議会を終了します。  
ありがとうございました。

●閉会

## 豊中市総合計画審議会 第1専門部会振り返り

### 1. 全体の構成について

- ・市民活動団体の活動が全体のどこに位置づくのかマップのようなものや、施策の関係性がわかるものがあればよい。

### 2. 第1章 子ども・若者が夢や希望をもてるまち

- ・「1-2 保育・教育の充実」の「ともに学ぶ教育の推進」の部分に、保健・福祉との連携を加えるとよい。

### 3. 第2章 安全に安心して暮らせるまちづくり

- ・「2-1 自立生活支援の充実」で「自立生活」が自助努力を促す印象を受けるので、和らげる言葉を入れることはできないか。
- ・「2-1 自立生活支援の充実」と「2-2 保健・医療の充実」が分断された感じがするので、福祉・保健との包括的な医療を目指していることを加えることはできないか。
- ・在宅医療の推進でも、医療・保健・介護の連携といった包括的システムの考えにも触れる必要がある。
- ・全体として、予防が強調されているが、高齢化の視点からみると、終末期をどうするか視点も必要。
- ・福祉の分野においては、今まで培ってきた生活圏域を大事にするという視点が重要である。

### 4. 第4章 いきいきと心豊かに暮らせるまちづくり

- ・「DV 予防・防止対策の充実」に緊急対応も触れるとよい。

### 5. 第5章 施策推進に向けた取り組み

- ・施策間の連携だけでなく、公と民との連携の中に、市民活動団体間の民の連携についても表現できないか。
- ・行政と民間との協働だけでなく、関係団体同士のマッチングや問題解決に至る過程を整理する必要がある。
- ・今後も行政の事業は民営化が進んでいく。そのため、行政の役割が見えにくくなる。職員教育において、たとえば、「協働型職員」など現場視点が必要である。

### 6. リーディングプロジェクト

- ・「まちへの愛着を感じている人の割合」という意識調査のデータは主観的な指標のため、グラフの解釈に違いが生じる可能性がある。建物の老朽化や人口の流出といった客観的な指標を掲載するほうがよい。

## 会 議 録

会議の名称	豊中市総合計画審議会 第1回 第1専門部会		
開催日時	平成29年（2017年）2月11日（土） 10時00分～12時00分		
開催場所	第二庁舎3階 大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	政策企画部 企画調整課	傍聴者数	2人
公開しなかった理由			
出席者	委員	赤尾委員、加藤委員、斉藤委員、大澤委員、廣瀬（淳）委員	
	事務局	足立部長、福山次長兼課長、糸井主幹、榎本主幹、佐野副主幹、上野	
	その他	団欒長屋プロジェクト 代表 淵上氏 豊中市PTA連合協議会 会長 清水氏 一般社団法人キャリアブリッジ 代表理事 廣水氏 一般社団法人キャリアブリッジ 理事 白砂氏 豊中市障害者自立支援協議会 副会長 高橋氏 社会福祉法人豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長 勝部氏 自主防災活動団体連絡会議 代表幹事 嶋氏 一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会 事務局長 佐々木氏 一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団 事務局長 西村氏 公益財団法人とよなか国際交流協会 事務局長 山野上氏	
議題	1. 市民活動団体等との意見交換 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

# 平成 28 年度 豊中市総合計画審議会 第 1 回第 1 専門部会 議事要旨

日 時	平成 29 年 (2017 年) 2 月 11 日 (土) 10 時 00 分～12 時 00 分
場 所	豊中市役所第二庁舎 3 階大会議室
出席委員	赤尾委員、加藤委員、斉藤委員、大澤委員、廣瀬 (淳) 委員 計 5 名
出席団体	団欒長屋プロジェクト (渕上氏)、豊中市 P T A 連合協議会 (清水氏) 一般社団法人キャリアブリッジ (廣水氏、白砂氏) 豊中市障害者自立支援協議会 (高橋氏) 社会福祉法人豊中市社会福祉協議会 (勝部氏) 自主防災活動団体連絡会議 (嶋氏) 一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会 (佐々木氏) 一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団 (西村氏) 公益財団法人とよなか国際交流協会 (山野上氏)
事務局 傍聴者 案 件	政策企画部企画調整課：足立、福山、糸井、榎本、佐野、上野 2 名 1. 市民活動団体等との意見交換 2. その他
資 料	○ 次第 ○ 【資料 1】 市民活動団体調査結果一覧表 ○ 【資料 2】 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画 (素案) ○ 【参考 1】 第 1 専門部会座席表 ○ 傍聴者アンケート
会 議 録	下記のとおり

## ●開会

## ●資料・趣旨・団体紹介について

事務局

(資料・趣旨の説明と団体紹介について)

## ●「1. 市民活動団体等との意見交換」

部会長

今日は、市民活動団体の皆さまから、総合計画に関してご意見をいただきたいと思います。まず、審議会委員から資料 1 の調査結果を参考に質問し、意見交換させていただきたいと思います。では、一般社団法人キャリアブリッジへのご質問をよろしくお願いします。

委員

ひきこもりをテーマに活動されていますが、相談事業を通じて、若者がひきこもりに至る原因には、どのようなものがあり、またどのような対処・取組みが必要だと感じていますか。

### 一般社団法人キャリアブリッジ (以下「キャリアブリッジ」とする)

私たちがひきこもりの若者の相談に対応しているのは、豊中市教育委員会・くらし支援課の委託事業である「豊中市若者支援相談窓口」です。相談は、当事者に会えないケースも多く、保護者の場合は母親相談がほぼ 100% の状態です。

ひきこもりの原因ですが、保護者の方を通じての聞き取りになりますので、正確な特定はできません。また、支援の方向性としては、原因の特定を重視しているというよりは、成育歴などの背景や、今どういう状態にあるか把握して、本人・保護者のニーズと合わせてアセスメントして、場合によっては適切な機関につなぐ役割をしています。保健所や福祉事務所のケースワーカー等とも連携しています。足りないと思っている社会資源としては、「アウトリーチ」の部分です。私たちは訪問支

援をしていないので、訪問支援をされている団体と連携できれば、支援の可能性が広がるのではないかと考えています。

原因とまでは言えませんが、関係がありそうなことを補足させていただくと、不登校の相談が約60%あり、ひきこもり状態にある方の割合も約60%です。不登校からひきこもりにつながっていく割合は大きいと思います。また、保護者らの相談の半数は高校生、大学生の子どもに関する相談です。またキャリアブリッジでは「とよなか若者サポートステーション」事業も運営しており、無業者と就学していない若者を対象としています。若者サポートステーションの利用者では、ひきこもり経験のある方が約20%いる状況です。また、障害をもっているのではないかと思われる方が、40%くらい見受けられます。若者支援相談窓口は、ひきこもりや不登校の方だけを対象にしているわけではないですが、実態としては8割近くが関連する相談です。役割としてコーディネーターが中心ですが、ひきこもりや不登校に関して民間の組織との連携が手薄なのが課題だと思っています。

## 委員

ひきこもりを把握できていない方もいるのではないかとと思うのですが、そういった方への取組みとして、どのようなことが必要だと感じていますか。

## キャリアブリッジ

豊中市で若者の調査をされているので、データが出れば数字的なものは見えてくるのではないかと思います。支援機関同士のネットワークが重要だと思います。社会福祉協議会さんなどが地域とつながる活動をされていますが、必要に応じて適切な機関が入って、適切なタイミングで支援につながるような、市全体としての機能が高まっていくことが大事だと思います。豊中市はそういったところが進んでいると思いますが、より拡充されるとよいと思っています。また、ご家族の継続相談をする部分も、まだ充実していない印象です。ひきこもり状態からの移行期にある若者の居場所機能も重要になってきます。すぐに就労につながることは難しいので、就労までの準備期間、ステップアップ期間としての社会資源は、まだ充分ではないと思っています。

大きく眺めると、若者の問題というのは、早く自立することが長い人生の中で効果的で大切だと実感しています。若者支援で課題となる部分は、「課題をもっている方とどう接触できるか」「ふさわしい支援が充分あるのか」「就労などの出口資源をいかに充実させるか」の3つくらいあると思っています。1つめの課題は、市内の定時制高校内に居場所をつくっていますが、貧困や卒業後にひきこもりのリスクが高いなどの問題を抱える生徒が多くいます。そこで、学校を卒業した後も支援を継続できるように学校と連携する仕組みを作りつつあります。課題が発見されたらスクールソーシャルワーカーさんも動いていただけるのですが、連携先の開拓や協力関係の充実が必要だと思っています。民間の居場所づくりをされている市民団体との連携も大切だと思っています。

## 部会長

続いて、団欒長屋プロジェクトへのご質問をお願いします。

## 委員

「まちの課題」として、子育て支援の取りこぼしがあるとあげられていますが、どのようなことが取りこぼされていると感じているのか、具体的に教えていただけますか。

## 団欒長屋プロジェクト（以下「団欒長屋」とする）

民間施設として、乳幼児の保育所と学童保育を運営しています。土日の方が出やすい方がおられるのですが、行政の方で行っている子育て支援はほとんどが平日なので、支援を受けられないといった声が聞かれます。また、豊中市の各校区で平等に子育て支援が行われていることはすごくいいことだと思うのですが、ひとつひとつがすごく似通ってしまうことがあると思います。民間だといろんなカラーをもたせた取組みができると思います。母親へのカウンセリング、話を聞いてあげることだけに特化した子育てサービスであるとか、リトミックであったり、食育であったり、場所で特色をもたせる方法や、実施する月で特色をもたせる方法などを工夫すれば、サービスが受けやすくなると思います。お母さんたちは、話を聞いてもらいたいという気持ちや自分たちが話したいという気持ちが多くあると感じています。家で子育てしていると大人と会話する機会が少なくなり、自分から悩みや苦勞を発する機会が少なくなる一方で、情報だけは入ってきて、どうしたら良いかわからず悩まれている方が多くいます。保健師さんや行政の子育て支援などサポートしてくださる方はいますが、その方

たちに傾聴の研修を受けていただければ良いのではないかと考えています。育児に関しては、これまでの世代と価値観や子育て環境が変わってきていると思います。働いているお母さんも多いですし、近くに頼れる実家、親戚がありません。豊中市は特に転勤の方も多いです。また、地域で子育てする風土があまりないとも感じます。当団体では、地域の子育て力をあげる視点で、実践的な取組みをしようと考えています。行政の子育て支援も、地域で子育てをしている延長で行っていただきたいと思っています。サポートして下さる方には、シニアの方も多いですが、自分たちの時の育児とは違うことを踏まえて、お母さんたちの話を聞いて欲しいと思います。子育てニーズは多様化しているので、ニーズの聞き取りが大切です。今、子育ての負担がほとんど母親に集中している状況で、休むことを肯定してあげる取組みをしていければと思っています。

#### 委員

土日のサービスがあれば、お母さんだけではなくお父さんも参加できて、家族間の子育て意欲も高まるのではないかと考えています。地域内で多世代交流が進み、地域で子育てができる環境になれば、情報共有など、ひきこもりの対策にもつながるのだと感じました。子育て観の違いを感じているということでしたが、多世代交流を進めるにあたって、どのような難しさがあると感じていますか。

#### 団欒長屋

子育ての大先輩であるシニア世代の方と今子育てをしている世代の二極で集まると、どうしても困っている側と教える側になってしまい、説教ようになってしまうことが多々ありますので、高校生や大学生など、いろいろな人が関われば良いと思っています。シニア世代の方にも、教えに行く場ではなく、自分たちも癒される場として思ってもらいたいです。価値観が多様化し、新しい育児方法なども生まれる中で、否定しないことを前提とすることが大切だと思っています。

#### 委員

核家族ではなく、地域の中に大きな家族ができれば良いという内容だと感じました。地域の中に施設があり特色もあって、そこに行ける情報があればとても良いということですね。

#### 団欒長屋

子育てしているお母さん、若者、シニア世代にとって、自分たちに合った場所を選べる選択肢の多い市であれば良いと思います。市民にとって、心地よい暮らしや居場所を自分で選べるのが理想です。そのためにも、たくさんの機関があって、特色をもったサービスを提供する場所があり、その中で自分たちも子育てやまちに関わっていくような場所がたくさんあればと思っています。

#### 部会長

続いて、豊中市PTA連合協議会のご質問をお願いします。

#### 委員

「まちの課題」の中で、「わが町ふるさと」という意味や気持ちの育ちをどう構築するかとありますが、どのようなことからそう感じられましたか。

#### 豊中市PTA連合協議会（以下「PTA連合協議会」とする）

子どもたちがこれから育っていく中で、今生きている場所を生涯にわたって「ここがふるさと」と思えるような育ちをしてほしいと思っています。豊中市は転勤の方も多いですが、最終的に豊中に戻ってくる方もたくさんいます。子どもたちが将来このまちに戻ってくるかどうかは、今の大人たちの課題だと思っています。子どもたちが育っている小学校や中学校でもっと楽しいことがあれば、必ず豊中に帰って子育てしようと思ってもらえ、人口も増えるのではないかと考えています。こういった観点で、地域力をあげていきたいと思っています。そのためには、学校単位で地域に参加できるような取組みを構築していく必要があると思います。先ほどの話にも出ていましたが、現在不登校の子どもたちが多く、先生方の話ではいじめや勉強など特に原因があるわけではなく、学校に魅力を感じていない子どもたちが多くなっていることが原因ではないかと思っています。学校やまち、地域の中でもっと楽しみが増えれば、子どもたちにとって明るい未来になるのではないかと思います。

## 委員

家庭教育の支援といったことが言われていますが、PTAは、どのような支援をされていますか。

## PTA 連合協議会

最近では働いているお母さんが多く、家庭を顧る余裕のない方も多いのではないかと考えています。学校任せになっている部分も多く、反省しないといけない部分ではあると思います。「ママのスマホになりたい」というタイトルの子どもの詩があるのですが、保護者が子どもたちの視点にたって、育てていけないといけないのではないかと考えています。PTAとしても、子どもたちと参加できるプログラムを考え、まち全体で子どもたちを支えていくためにも、忙しい保護者が増えているので、毎回は無理でも、何回かに1回でも参加できるようなやり方を考えていく必要があると思っています。例えば、防災訓練や夏祭りなど親子で参加できる催しがあれば良いのではないかと考えています。PTAも役員を中心に出店などして、学校の子どもたち向けにすることもできます。子どもの頃からふるさとの気持ちをもってもらえるように、顔の見える関係づくりが大切で、保護者だけでは大変なので、地域単位の支え合いができるような取組みをしていくことが大事だと思っています。

## 委員

PTAの組織のあり方として、PTAから抜けたいとか、やりたくないといった声も結構あるかと思いますが、全員がPTAに参加といった前提そのものが、豊中市ではどうなっていますか。

## PTA 連合協議会

テレビで報道もされていますが、大変な問題だと思います。委員をお願いすると、多くの方が断られます。ただ、最初はすごく嫌で、くじやじゃんけんで仕方なく引き受けられた方も、1年の最後に委員をして良かったと言う方が多いです。実際に携わっていただいた方は「新しい友達ができた」「子どもたちに還元できることができた」と喜んでくださっており、PTAをきっかけに地域のお手伝いをしてくださる方も出てきています。豊中は、お手伝いやご協力をしてくれる方が、多くいると思っています。

## 部会長

続いて、豊中市障害者自立支援協議会のご質問をお願いします。

## 委員

障害のある方への活動は、全国的に見ても豊中は活発で歴史もあると思っています。新しい総合計画の施策で「自立生活支援」という言葉を使おうとしているのですが、「自立生活支援」や「自立支援」、「自立生活運動」など、障害者・高齢者・生活困窮者の分野がいろいろ混ざって使用されている中で、豊中市障害者自立支援協議会として、言葉へのこだわりや使い分けはありますか。

## 豊中市障害者自立支援協議会（以下「障害者自立支援協議会」とする）

皆さんが豊中で本人らしく、いきいき暮らしていく部分で、何かひとつサポートがあれば自分でも見出せる場所を高めていくこと、できた喜びにつなげていけるような支援だと認識しています。

## 委員

言葉に対してのこだわりは、あまり周辺では聞かない感じですか。

## 障害者自立支援協議会

義務的な感じにとらわれてしまうと、ねじれてしまうのではないかと考えています。

## 委員

調査結果を見ていますと、横串を刺すような部署の連携や教育と福祉の連携、高齢者施策との連携といったつながりが大事だということを強く訴えられているように思いますし、一番縦割り行政の弊害が出ているのがこの分野ではないかと思っています。今後10年間の計画をつくる中で、市に期待することと皆さんの活動ができることを、どのようにイメージしていますか。

## 障害者自立支援協議会

「教育」と「地域での生活」の部分があります。「教育」に関して、医療的なケアが必要な子どもの支援が課題としてあがっています。障害をもっている子どもで、学校に通うことが保障されていない現状があります。スクールナースがいても人数が足りなかったり、親御さんがついていかなかったら通えなかったりします。また、1時間目から6時間目までの授業は保障されていても、ショートホームルームの時間はスクールナースがいないことなど、狭間でいろんな課題があります。何とかしていききたいので、福祉や教育の分野ともうまく連携をとって、障害をもっている方でも教育を受ける権利を保障していければと思っています。また、「豊中で生まれて豊中に帰ってくる」という先ほどの話でいうと、障害が重いためにやむを得ず親元を離れて施設に入所されている方が、豊中にもたくさんいます。全国的には、施設からまた地域に戻ってこられるように、地域移行の支援も進んでいます。地域に戻ってきて、あたりまえの生活ができるための生活の場を増やしていくという部分で、グループホームという事業があります。スプリンクラーの設置義務などの面でグループホームの継続が困難な状況があります。障害福祉課だけではなく、消防局にも理解していただきたい部分であり、もう少し横の連携をとっていただければと思っています。

## 委員

障害の分野は、国や府のルールがいろいろあり、市でも動きにくいところはあるかと思いますが、貴団体が言われたように地域移行が進み、個別事例への対応が必要になってくる中で、市には障害者団体との連携・コミュニケーションを密にいただき、柔軟な対応を期待しているという解釈でよろしいか。

## 障害者自立支援協議会

その通りで、課ごとではなく、市全体の問題として横でつながっていただけると心強いです。

## 部長

続いて、社会福祉法人豊中市社会福祉協議会のご質問をお願いします。

## 委員

今までのお話を聞いていても、今後10年間の福祉・教育の分野において、「地域」が大きなキーワードになってくると思います。「地域福祉の主流化」というのも言われて久しく、自治体にいろいろな事業がおりにくる時代になって、地域抜きに語ることはできない10年になることは明らかですが、その中で、社会福祉協議会の役割は今後10年大きいものになってくると思います。縦割りではなく、地域福祉がベースになっていく取組みについて、今の豊中の特徴と今後10年間の展望があればお聞かせください。

## 社会福祉法人豊中市社会福祉協議会（以下「社会福祉協議会」とする）

今年度から国のモデル事業で「多機関の協働による地域包括的支援体制構築事業」を進めており、包括というとその人が全部するのかわかるとは思いますが、みんなで力を合わせていく体制づくりを進めています。「我が事、丸ごと」といった体制づくりが世の中の的に進められており、我が事のように思える住民をどうつくっていくか、それを丸ごとサポートしていく行政力をどうつくるかということが課題となっています。「我が事」に関しては、豊中では公民分館、地区社協、民生委員といった従来の地縁型チームとテーマ型の取組みも進んでおり、取組みの市民力・住民力は現状ではかなり頑張っていると思うのですが、一方で豊中市は1年間で2万人くらいの方が入れ替わっており、集合住宅にお住まいの方が全体の66%という状況で、地域からどんどん隔離されているところが出てきています。その中で、PTAは唯一学校とつながっていくのですが、地域活動になってくると、オートロックの中はつながることが難しく、非常に困難な状況にあります。最初から拒絶されている状態や関係をつくるのが出来ない問題に対して非常に危機を感じています。そこで私たちも「マンションサミット」等を行っていますが、このまちに住むことのアイデンティティをつくっていく必要があります。一部の人だけで支えるといったやり方をしていると、その人たちが疲弊してしまう問題があるので、みんなが自分たちのまちにイメージをもつことが大事だと思います。「丸ごと」に関しては、高齢や障害分野では、民間の相談窓口が主流になってきており、子どもの分野も今後そういう方向が出てきている中で、行政力が今後どのように変わっていくか難しさを感じています。行政自体が、いろ

いろな問題について実際に感じる場面を外部委託することで、実態を知る機会が少なくなる懸念されます。自治体と専門職の相談窓口との役割について、これから問われていくのだと思います。

## 委員

問われていく部分を、総合計画に少し示せれたらと思うのですが、民間が主導する福祉になっていく中で、行政に期待すること、行政の役割はどんなことだと思いますか。

## 社会福祉協議会

市職員の方たちも、市民のためにお仕事をされているはずですし、そういう思いを皆さんもたれているのだと思いますが、現場に近いお仕事を自分たちでしていなくて、数字や報告書などで理解し管理だけになると、ますます現場が見えなくなってくると思います。地域に近い協働のパートナーとして、行政も一緒に動くような仕組みが必要だと思います。ここにお集まりの団体は、自分の組織が頑張れば良いといったことよりは、豊中市全体の中でどのような役割かといった点で頑張っているはずであり、どんどん外注化されていくことは、多様になって良いとか、専門性が発揮されて良いという面とは別に、方針を立てる時に大丈夫かなと危惧しています。

## 委員

校区福祉委員会の活動は、全国的に評価されているところだと思いますが、「小地域福祉」というのは、今後どういう位置づけになってほしいと思いますか。障害分野でも子どものことを考えて地域の居場所づくりを考えている中で、豊中が培ってきた校区福祉の単位というのはすごく重要であると思っています。

## 社会福祉協議会

拠点の問題や広場、校区の設定など、多様に小さくたくさんつくり、それを緩やかにネットワークでつなぐ考え方と、どこかに大きくつくり、みんなをそこに集めるという考え方があると思いますが、豊中的には多様にたくさんるところをネットワークでつなぐ方が合うのではないかと思います。多種多様な考えの人がいる中では、何かひとつのことを支配する的なまちづくりは難しいと思います。小学校区単位で横につながることが出来ればよいと思います。

先ほどの件で、私たちもひきこもりの相談を受けており、2つのパターンがあると思っています。転勤族で不登校になっていくパターンと貧困から這い上がれず、連鎖して学校にいかないパターンです。貧困の問題について解決していくためにも、子どもたちの学習支援をしっかりとやっていかないといけないと思います。私たちが働き出した頃と比べると格差が広がっていると実感しており、豊中のまちが二極化するのを止められるかどうかの瀬戸際ではないかと思っています。もうひとつ、ひきこもりの問題で有効だと思っていることは、歯医者です。歯が痛いのは、どうしても本人が出ていかないといけないので、歯医者に行くというアウトリーチをかなり行っています。本人の生活習慣を変えることからアプローチすると、大きなお節介になってしましますが、歯が痛いとか髪の毛が伸びて困っていることは、本人の困り感なので、比較的アプローチしやすいです。歯科医師会との新たなネットワークが必要になってきます。高校の中退者のひきこもりからフォローしないと、我々が出会うのは50歳になってからのひきこもり相談になってしまいます。30年間社会から孤立している人が、豊中のひきこもり1期世代にはいるということを理解していくと、非常に深いものがありますので、教育のところからフォローしてひきこもりの期間を出来るだけ少なくし、社会で力を発揮していただく必要があると思います。高齢化社会を支えていく意味でも、いろいろな方が活躍できることが大切だと思います。

## 部会長

続いて、豊中市自主防災活動連絡会議へのご質問をお願いします。

## 委員

最近大きな災害が聞かれる中、行政だけでなく、地域ごとの自主防災がとても大事な課題だと思っています。「まちの課題」の中に、地域によって温度差があると書かれていますが、原因はどんなことにあるとお考えですか。

## 自主防災活動連絡会議

自主防災活動連絡会議は、発足してまだ4年目です。阪神淡路大震災の後、各地域で自主防災会が立ち上がりましたが、当時は自主防災会が何かよくわからない時代でした。156団体出来上がったのですが、10世帯程度の小さな自主防災会から2,000世帯以上の大きな自主防災会まで様々です。当初から予算化を市にお願いしていたのですが、小さい防災会と大きな防災会の差があるので、なかなか予算化が難しかったのが実情です。予算がある地域は防災訓練や防災講座など活動できたのですが、予算の全くない地域は活動ができない状況でした。今でも自分たちで活動が行えている地域は、全体の1/3程度ではないかと思います。今で140団体くらい自主防災会があると聞いています。その中で、自主防災活動連絡会議を立ち上げたのは、校区単位でまとまると市も予算化できるということからです。4年前は、小学校区単位の防災会は13校区であったのが、現在は26校区になっています。この26校区については、市から予算をいただいています。しかし、訓練も講座も行ったことのない小さい防災会は、まだまだたくさんあります。今後この校区単位の防災会に入っていただいて、一緒に活動してもらえればと思っています。

いろんな自然災害が増えてきており、自主防災会の役割がどんどん増えてきていると思っています。しかし、大きな自然災害に直面したことが、まだ1回もないので、直面した時に自主防災会がどれだけ力を発揮することができるか全くの未知数です。

## 委員

経験はしていないが、大きな災害を想定しながら団体を育てている段階かと思っています。今後10年間、行政とどのように取り組んでいけば、団体が確固たるもの、理想的な形になるとお考えですか。

## 自主防災活動連絡会議

防災を小学区単位にまとめたいという話を現在しているわけですが、防災には垣根はないと思っています。同じ地域、豊中市に住んでいる以上は垣根を越えて、有事の時には助け合うのが基本だと思っています。その中で、福祉の方からもお話があったように、地域の支え合い運動をこれから進めようと思っています。南部地域では、垣根を越えて、神崎川流域合同防災訓練を年1回行っています。昨年は32団体に参加していただきました。大阪市側の地域からも参加してもらっています。広域災害の時には線引きはないとの考えです。茨木市、高槻市とも連携して同日同時間に豊中市全域の広域防災訓練を行っていただければと思っています。

## 部会長

続いて、一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会へのご質問をお願いします。

## 委員

「まちの課題」の中に、「人権意識調査に見られる市民意識の改善策」をあげています。どのような市民意識がでていましたか。

## 一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会（以下「人権文化まちづくり協会」とする）

総合計画で行う市民意識調査の自由意見の記述に、同和行政に関して44件の意見がありました。主なものとして、「同和行政に力を入れ過ぎているのではないか。逆に差別が生じることもある。」が21件、「同和対策と限定せず、個人の教育で支援を」が7件、「同和行政は充分推進されている」が6件などあります。44件のうち半数が「同和行政に力を入れ過ぎているのではないか。逆に差別が生じることもある。」という意見です。こういった調査では必ずこのような意見が出てきます。2002年から法律が変わり、特別対策事業がないのが実態ですが、市民の中にはまだしているのではないかという思い込みがあって、こういった意見につながっているのだと思います。また、小中学校における人権教育の課題があると思います。若い人の調査をみると、人権教育は学校で多くの方が受けています。40歳代～50歳代の結果をみると、人権教育の内容は7割くらいが同和問題です。ところが、若い世代は2割～3割が同和問題といった状況です。現状で言うと、今の若い方は小中学校で部落問題を教えてもらう機会が減っているということです。豊中の新任採用の教職員の方の中にも、知らない方が毎年何人かいます。部落問題を知らずに社会に出て、マイナスの情報を聞いて初めて部落問題に出会うというケースが多くあります。それぞれ出会い方は違い、考え方も違うと思います。私は違って良いと思っています。しかし、間違った意識をもっていった時には、どこかで是正する機会をつくつ

ていかないと、間違った判断や対応をしてしまうおそれが高まると思います。どこかで部落問題にきちんと出会う機会をもってほしいと思います。できれば小中学校の義務教育の間に機会をもっといただいて、差別はいけないことだと自覚をもっていただきたいと思います。

## 委員

活動として「人権相談」をされていますが、どのような相談内容がありますか。

### 人権文化まちづくり協会

昨年度の相談の述べ件数は123件です。結婚の問題の相談があります。この方はパニック障害を抱えておられ、厳しい状況にあったわけですが、粘り強い相談の中で家族の反対の意思もゆらいできた話もあります。いろんな相談がありますが、話を聞いてくれるということが相談者にとっては大切だと思っています。完全な解決策を求めてくるのではなくて、自分の抱える問題をきちんと受け止めてほしいという方がたくさんおられます。精神的な問題を抱えている方の相談も増えてきています。相談窓口は、まだまだたくさんあった方がよいと思います。

## 委員

今後、豊中市内の事業者に取り組んでいただきたい内容と行政に要望したいことがあれば、お聞かせください。

### 人権文化まちづくり協会

豊中市内には、企業が集まっている企業人権協議会があります。この中で人権課題をテーマにした取組みをされています。しかし、まだ組織率も不十分ですし、取組みもまだ課題を抱えておられると思います。人権の課題で言いますと、豊中市が大きな役割を果たすべきではないかと基本的に思っています。差別はだめだという抑止力を発するのは行政の役割で、豊中市がメッセージを出すことが、一番説得力があると思います。官民協働も良いのですが、官は官としてしっかりとしたスタンスで、メッセージを発してもらいたいと思っています。

## 部会長

続いて、一般財団法人男女共同参画推進財団へのご質問をお願いします。

## 委員

今後10年間の総合計画の中で、男女共同参画の推進は、人権という視点からも軸となる重要な部分だと思います。「必要な取組み」として3つあげていただいている中で、就労支援について書かれており、今回の総合計画では、特に「子ども」に重点を置く施策になってきますので、その中で男女共同参画の視点を盛り込んでいくことが大事であると思いました。女性に対する暴力について、暴力をなくすことや予防することは、総合計画の素案で書かれているのですが、対処については何かないですか。

### 一般財団法人男女共同参画推進財団（以下「男女共同参画推進財団」とする）

「すてっぷ」で受けている日々の相談対応が、まさに対処という部分にあたるかと思います。年間1,800件の相談を受けていますが、1/4が暴力に関わる相談です。身体的暴力だけではなく、お金を渡さないことや言葉による暴力など多岐に渡っています。相談室では、ひとりひとりの女性の悩みに寄り添って、悩みを整理し、自分でどうするか決定していくことをお手伝いしています。緊急性のあるものに関しては、市の人権政策課につないで、そこから必要な対応をしている状況です。

## 委員

緊急時の対応について、課題に感じていることはありますか。

### 男女共同参画推進財団

基本は相談窓口なので、必要な情報提供をさせていただいた上で、例えば、逃げたい希望がある場合は、気持ちを確かめ、市役所につなぐ取組みをしています。

最近の課題は多岐に渡っており、DV防止法で言われているのは、夫婦間、パートナー間の暴力ですが、最近出てきているのが、親子であったり、兄弟であったり、法律の網にはかからない事例です。その際の対応に苦慮することが多々あります。

#### 委員

市に対して今後10年間、こういったことを期待しますか。

#### 男女共同参画推進財団

小学4年生の段階で、既に男女の枠組みをはっきりもっていると実感した経験があります。男女共同参画の推進の今後10年を考えた場合、教育のあり方が大事であり、性別の役割を超えていても良いという教育が求められるのだと思います。暴力に関しては、私たちが想像している以上に、子どもたちは日々暴力に晒されていると思います。「声をあげてもいいんだよ。」「助けを求めてもいいんだよ。」といった予防教育を、全校くまなく進めていくことと、基本的な認識をもつ教員やプログラムの担い手を育てていくことが大事だと思います。

また、相談業務を通して思うことは、自分で自己決定して、次の展開を進めていこうとした時に、経済的な基盤があるのとないのでは、全然違います。DVを受けていて、自分で自立していこうと思った時でも、仕事がなかったら、離婚＝収入がなくなるということなので、安定して働くということは、人間にとってかけがいのないことであることを伝えていくことや、それを支援する仕組みは大事だと思います。

高齢化が進んでいく中で、豊中でも単身世帯が1/3あり、その中には非正規シングル女性がいます。非正規シングル女性についての調査も最近始まっていますが、あまりこれまで日があたってこなかったもので、具体的なニーズをつかむ調査や施策の立案が必要であると感じています。

#### 委員

豊中市内の事業者に期待することや、市からの働きかけについてどう思いますか。

#### 男女共同参画推進財団

女性活躍推進法では、一定規模以上の事業所に対してしか実態を公開することを求めています。豊中市域において、小さい規模の事業所に対しての取組みがどうなのか情報公開することや、市には事業所のニーズをつかみ、手立てを考えてもらいたいと思います。

#### 部会長

最後に、公益財団法人とよなか国際交流協会へのご質問をお願いします。

#### 委員

「まちの課題」の中に、外国人を住民や労働者として受け入れるには何が必要か理解されていないことが多いとありますが、どのようなことが理解されていないのですか。

#### 公益財団法人とよなか国際交流協会（以下「国際交流協会」とする）

今の豊中市は、外国人が5,000人を超えて、じわじわと増えてきています。その中で住民や労働者として受け入れるにあたって、「外国人とどう接していいかわからない。」「何か困っているみたいだけど、どう声かけしたらいいかわからない。」と、素朴にわからない、イメージがわからないということがあっていいかと思っています。基本的には、外国人が日本で生活していく上で日々行うことは、日本人と変わらない部分が多々あるのですが、違いが前面に出てきてしまっていて同じように思いが至らないことがあるので、接点をどうつくっていくのが大事だと思っています。労働者として受け入れる場合では、仕事をしている時間以外は普通に生活していたり、日本で結婚したり、国から家族を呼んだりすることもある中で、それに対するサポートの必要性がなかなか理解されないことがあります。

#### 委員

市の北部と南部で外国人の抱える課題が異なると書かれており、南部地域では深刻化しているということですが、こういった問題がありますか。

## 国際交流協会

北部の方は、大阪大学の研究者や技術者など生活自体も安定しており、親も生活の余裕から子どもの教育に対して熱心ですが、南部では、親の仕事の状況が不安定であるが故に、生活自体の大変さはもちろんですが、子どもの教育が充分サポートできていない状況があります。また、南部の方ではひとり親家庭が増えてきており、外国人なのでさらにハードルがある部分があります。南部の課題が深刻になってきているのですが、国際交流センターが北部にあるので、相談に行けるのかどうかというところで、南部に窓口がないと、しんどい声を救いきれないのではないかと感じています。

## 委員

「災害時の対応を含め、多言語対応が十分ではなく、多くの外国人が安心・安全に生活できる環境がない。また、外国人の力をまちの活性化につなげられていない。」という課題を示しておられますが、これについて日本全国で参考となるような先進事例はありますか。

## 国際交流協会

災害時の対応は、地震があればそれぞれの地域で取組みが進んできています。熊本では、まちの中の表記もそうですし、配布物やネット・メールでの配信の部分の多言語標記が充実しており、外国人の日々の生活の安心につながっているように感じました。ただし、多言語対応の情報がどこにあるのか、どこに行けば助かるのかという情報が、物としてあるだけでは機能せず、日々のコミュニティやつながりをつくっておくことで何か起こった時に、行けばよい場所や見ればよい情報がわかるようなので、ハード面の状況改善とともに外国人の相談できるところやコミュニティづくりを同時に進めていく必要があると思います。

まちの活性化は、しんどさや困難さを抱えている人たちが減っていき、元気になって余裕ができれば、まわりの人のために何かしたいとか、地域のためにできる事があればしたいといった人たちはたくさんいます。外国人が安心・安全に暮らすことができることが、生活の安定や心の安定につながり、それが地域を盛り上げる結果につながると思います。単に労働力としてではなく、多様な視点や切り口を付加する形で、まちを元気にしようとする動きをしてくれることがあります。それがうまくいくと、支援や交流だけでなく、まちの元気につながっていくのではないかと思います。

## 委員

今後10年間に向けて、多文化共生の観点から、訪日外国人観光客に対する公共サービスについて、豊中市に要望したいことがあればお聞かせください。

## 国際交流協会

外国人に関して、支援や国際交流、インバウンド、活力の活用といったことが、切り離されて語られることが非効率なのではないかと感じています。まちの人が暮らしやすいように多言語化やサポートしていくことを、地域の外国人が「暮らしやすいよ」と発信することで、外国人が来るようになると思います。ネットやSNSの発信で訪れることが増えてきています。インバウンドが増えることと地域に暮らしている外国人が暮らしやすいと思えるか、発信できるかどうかはリンクして考えた方が地域の元気につながると思います。

## 委員

民泊については、どのように考えていますか。

## 国際交流協会

民泊の条例をつくるかどうか以前に、庄内では、外国人向けのゲストハウスが2~3件できています。そこに来ている外国人に話を聞くと、「ローカルな雰囲気楽しい」という声があります。元々住んでいた地域の人が売り出したいポイントと外国人が面白いと感じて来るポイントは、実は違う部分があったりします。外国人から言われることで、地域の人気づきになる部分があります。いろんな視点が掘り起され、地域の魅力を再認識する機会にもなり、地域づくりの取組みにもつながっていくと思います。

あと、多文化共生の施策の記述で「国籍やルーツに関係なく」とありますが、外国人は国籍やルーツのちがいを大事にしたいという思いがあると感じています。関係がないと言われるとショックを受

けるので、個々のちがいを大事にしながら、地域の多様性やダイバーシティにどうつなげていくかを考えていく形の方が良いのではないかと思います。

## 委員

この問題は男女共同参画や福祉の分野にも将来的に関わってくると考えています。

## 部会長

最後に、1点だけご意見をいただければと思います。テーマ型の活動をされている方が多かったかと思いますが、今回の総合計画では、リーディングプロジェクトで南部地域活性化プロジェクトを位置付けようとしています。その点のご意見をいただけたらと思います。地域性に着目しすぎている可能性もないわけではありません。皆さまのご発言から、南部地域で一定の成果を出していくことが、豊中にとってプラスになるという気もしましたが、この点について、ご意見いかがですか。

## 社会福祉協議会

豊中は公民分館や地区社協という形で小学校区を中心にいろいろな組織ができてきています。また子どもの未来という視点から、学校を中心に地域づくりをしてきたという経過が非常にあります。そこにアイデンティティを持ちながら、ふるさとづくりをやってきたという中で、南部地域の活性化において、子どもの貧困の問題や子どもたちの教育における格差の問題などの大事な点と、地域づくりをどのようにリンクするのかが、非常に気になるところです。人間のつながりは一回くずれると作り直すのは非常に困難であり、見守りなどネットワークや地域のつながりで行ってきたことと共存できるような形ができないのかと考えます。地域食堂的なものが各小学校区域にきっちり残るような、コミュニティの拠点が地域ごとに残るようなこと、学校に変わる何かができるのかどうか心配に思っている面があると思います。そこが共存できるようなことを総合計画でぜひ書いていただけるとみんなも安心ではないかと思います。

## 人権文化まちづくり協会

部会長から地域性というお話がありましたが、人権まちづくりセンターはまさしく地域性に関わる課題に対応する施設です。40数年経過しましたが、1階にこども園、2階に隣保館、3階に児童館があり、4階がホールで、隣に老人憩いの家がある複合施設です。子どもからお年寄りまで一体的に事業など対応していく施設です。庄内地域などは地域課題を多く抱えています。地域住民の総意、住民参画での事業といったことを含めて、センターはそういった事業の組み方をしてきており、それは豊中市としてのモデルであり財産であるので、ぜひセンターと庄内地域の取組みをリンクして活かしていただけたらうれしいです。

## 社会福祉協議会

福祉と教育の連携という点が出ていたと思いますが、南部の中で、新しいモデルとしてできていくといいのではないかと思います。

## 部会長

具体的な点は、事業計画などで予算化されると思いますが、大きな総合的な計画の枠組みとして1章から5章まであり、それにぶら下がる形でリーディングプロジェクトとして南部地域があるという特殊な打ち出し方をしております。今のお話で、それでいい、問題ないとのことをご意見をいただいたということかと思います。

## 自主防災活動連絡会議

南部では、以前から「南部コラボ構想」を進めてきていますが、現在、学校の統廃合が非常に話題になっています。3年後の実現化に向けて進められていますが、地域においては、少子高齢化の中、問題となっています。南部の特に南側ではスーパーなどが1軒もない地域があり、お年寄りは遠いところまで買い物に行かなければいけない状況で、そこで小学校が統廃合となれば、住民がかなり減ってくるのではないかと、かなり高齢化してしまうのではないかと懸念が多くなっています。そういった点を解決してもらえる方法をとってもらえればと思っています。南部は今までは、都会の孤島化し、若い人が減っていくだろうと思います。こういった点もあり、9校を2校にしていくことも垣根が高くなかなか進んでいないのが現状です。それに対して市のほうが、どうしたらいいかという地域

の声ばかり聞き、検討しますということで後手になっているので、前向きに、もう少し具体案を先に出して進めてもらえたらいいのではないかと思います。

#### 部会長

インナーシティ問題ですが、現在、都心回帰という別の現象が大きく出てきていますので、それをふまえた上で都市再生をやっていくということで、かなり期待されていいと思います。新しいメニュー、やり方も出てきており、豊中市として勝算があるのではないかと考えています。

#### 国際交流協会

大阪府では、外国人がこの1年で20%ぐらい増えています。基本的には大阪市内に住んでいる人が多いと思いますが、そのうち川を渡って、少し安いところにと考えると、庄内など南部地域は可能性がありそうですし、これまでの歴史をふりかえってみても、外国人が多かった地域でもあります。そうなると、高齢化が進んで人が減っていくというのと、プラスそこに外国人が入ってくるというのは全国各地で起こっていますので、これから豊中でも起こってくるのだと思います。その時にどのように見せていくかというバランスは必要ですが、全国においては、例えば外国人が集住している団地の中で、外国人が地域の高齢者を支える防災のチームをつくって、高齢者の方に声かけをするなど、地域を支えていたり、東日本大震災においてもインドシナ難民の子どもがおばあちゃんを抱えてサポートしたり、また外国人の消防団などができている事例もあります。支援の対象というより、人材として、支援だけでなく投資という視点もあるのではないかと思います。

#### P T A 連合協議会

南部と北部の格差はかなり広がっています。これから南部の方で小中学校の統廃合を進めるにあたって、南北のバランスをものすごく考えていかないといけないと思います。南部で育った子どもと北部で育った子どもに違いが生じないようにしてもらいたいと思っています。豊中はひとつであることを念頭におきながら、どういう風にバランスをとっていくかということだと思います。

もうひとつ希望することなのですが、成人式を中学校単位で行ってほしいです。大きなホールに2,000人～3,000人集まると友達に出会えないことが多いです。それが原因で、成人式に参加しない人も増えています。中学校単位で行うことで、地域でお祝いができることや同窓会になることや、相談し合ったりすることで、みんな元気に育ち、また豊中に帰ってくるといった絆組みづくりが出来ると良いのではと思っています。

最後に、自主防災のお話で有事の際は地域の垣根を越えてとありましたが、もっといろんな情報を豊中市に発信してもらいたいと思います。自分の地域の防災はすごく進んでいると聞いています。毎年いろんな地域の防災会が見学に来られています。互いの防災訓練を知ることができたらもっと良いと思うので、防災訓練をしている場所を開示してもらえたら、他の地域の訓練にも参加でき、成果があがると思います。

#### 部会長

ご意見をいろいろ伺いまして、市は行政サービスを共通に行わなければならないのですが、地域課題はいろいろ差があって、多様性も考えながら、いかにサービスを担保していくかが大事であると思いました。難しい部分もありますが、皆様のご意見はここにいる委員が、責任をもって処理させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

#### 事務局

最期に連絡事項がございます。次回の専門部会は、2月21日(火)10時から開催させていただきます。会場は、議会棟大会議室になりますので、よろしくお祈りします。

#### 部会長

それでは、これで専門部会を終了します。

#### ●閉会

## 会 議 録

会議の名称	豊中市総合計画審議会 第2回 第1専門部会		
開催日時	平成29年(2017年)2月21日(火) 10時00分～11時40分		
開催場所	豊中市役所議会棟大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	政策企画部 企画調整課	傍聴者数	4人
公開しなかった理由			
出席者	委員	赤尾委員、加藤委員、斉藤委員、大澤委員、廣瀬(淳)委員	
	事務局	足立部長、福山次長兼課長、糸井主幹、榎本主幹、佐野副主幹、上野	
	その他		
議題	1. 前回のふりかえりについて 2. 第4次豊中市総合計画前期基本計画(素案)について 3. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

# 平成 28 年度 豊中市総合計画審議会 第 2 回第 1 専門部会 議事要旨

日 時	平成 29 年 (2017 年) 2 月 21 日 (火) 10 時 00 分～11 時 40 分
場 所	豊中市役所議会棟大会議室
出席委員	赤尾委員、加藤委員、芥藤委員、大澤委員、廣瀬(淳)委員 計 5 名
事務局	政策企画部企画調整課：足立、糸井、榎本、佐野、上野
傍聴者	4 名
案 件	1. 前回のふりかえりについて 2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画 (素案) について 3. その他
資 料	○【資料 1】平成 28 年度豊中市総合計画審議会 第 1 回第 1 専門部会議事要旨 (案) <第 4 回総合計画審議会の資料> ○【資料 2】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画 (素案) ○【資料 3】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画 (素案) 施策の括り ○【資料 4】総合計画等調査特別委員会における「第 4 次豊中市総合計画前期基本計画 (素案)」への意見について <第 1 回第 1 専門部会の資料> ○【資料 1】市民活動団体調査結果一覧表
会 議 録	下記のとおり

## ●開会

## ●成立要件の確認

事務局

部会員全員がご出席しているので、成立要件を満たしています。

## ●資料について

事務局

(資料について説明)

## ●「1. 前回のふりかえりについて」

## ●「2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画 (素案) について」

部会長

本日は、答申に掲載する内容について、審議いただきたいと思います。前期基本計画 (素案) について、総合的な意見や質問をお願いします。事務局には、審議会のこれまでの意見を、17 施策にどう反映させるか、ある程度意識をもっていただければと思います。

委員

第 3 次総合計画後期基本計画の時は、「主要テーマ」2 つが（「少子・高齢社会への対応」「自治都市の確立」）ありましたが、第 4 次総合計画前期基本計画では、この計画の全体の方向性は書かないのですか。

事務局

第 3 次総合計画は、前期基本計画 10 年、後期基本計画 10 年の計画期間だったので、後期基本計画策定時に社会経済環境の変化等をふまえて、改めて「計画の基本方針」と「主要テーマ」を定めました。

部会長

質問の「主要テーマ」の部分は、基本構想に書かれているという認識で、進んできていると思うのですが、それをさらにブレイクダウンして、前期基本計画の特に主要な部分を書かないのかという趣旨だと思います。

委員

私は、書いた方がよいと思っています。人口推計の次に、すぐ部門別の施策が始まるので、縦割りが際立つ感じがします。市民活動団体のヒアリングでも、「つながり」「包括的」といったことがひとつのキーワードだったと思いますので、5年間の前期基本計画でも、そういったことを基本構想からブレイクダウンしてトップにもってきた方がよいのではないかと思います。

部会長

基本構想が10年間の計画としてあり、それを進める5年間の前期基本計画という位置づけの中で、基本構想の中身を前期で変えるということが有り得るのかということだと思います。

委員

基本構想を進めるにあたり、前期基本計画の場合は、あえて目標を立てないということだと思いますが、私が担当している分野では、「医療」「保健」「福祉」といった分野横断的なところが多いので、「つながり」「包括的」といったことを書くところがないと、現実的に収まらないのではないかと思います。

事務局

前期基本計画の主要テーマは、リーディングプロジェクトと考えています。今回は「地域」にスポットあて、全庁的かつ戦略的に5年間で進めていきたい考えです。ただし、地域共生社会に向けた動きが国の方で議論されており、2020年頃から本格化するようなので、後期基本計画の時には、地域共生社会に向けた取組みもテーマとして掲載していく可能性があるのではないかと考えています。

部会長

委員の意見と事務局の回答を総合すると、前期基本計画に1章から5章の主要なものを総合的に書くのではなくて、各章に分野横断的なものを、主要テーマを睨んだ書き方にすればいいと思います。特に1章、2章、4章は、分野横断的なものに配慮した書き方をする方法もあると思います。

委員

平和なまちづくりや人権、自立生活の支援は、つながっているもので、ベースになるものや理念が必要になると感じます。それが基本構想だということであれば、要約版みたいなものが基本計画にあってもよいのではないですか。基本構想と別冊になるわけですから、工夫が必要だと思います。

事務局

本日は、基本計画のみをお示ししておりますが、総合計画の冊子は、基本構想と基本計画があわさったものになります。

ご意見の内容と違うかもしれませんが、施策の関係性が章の前でわかるようにしておく工夫もあるかと思います。

委員

難しいかもしれませんが、施策の関係図があればよいと思います。

委員

同様のことを感じました。今回、市民活動団体から意見を聞きましたが、各団体の活動が全体のどこに位置づくのか、マップのようなものがあると良いような気がします。また、団体との意見交換を通じて、地域の問題を考えていく上で、世界的に考え地域で活動する視点が重要だと感じました。世界と照らし合わせた上で、豊中がどうなっているかの検証やそういった思考回路が必要だと思います。単純なふるさと自慢の発想ではなく、世界的な基準と比べて住むに値する場所かどうかを考えた上で、豊中を選んでもらう感覚であれば良いと思います。

部会長

行政と民間の協働に関係することで、より広い知見、啓蒙的なことを施策として考えることもあるかもしれません。全体像を示すというご指摘はいかがですか。計画を具体的にブレイクダウンすればするほど、ご指摘がでてくるかと思いますが、連携して横串でいかに展開するかをどう表現するかということだと思います。施策の関係性を図のようなもので表すなど何か工夫できますか。

事務局

一度考えさせていただきます。

部会長

施策どうしの連携だけではなく、公と民との連携の中の、市民活動団体同士の民の連携について、具体的な連携施策を書く必要性は感じました。同時に、アウトリーチも考える必要があり、言葉として掲載する必要があると感じました。

委員

民間の団体が行政の様々な事業を行うことが、今後10年間で進んでいくと思います。そうになると、行政の役割が何か見えにくくなっていくと思います。行政職員が現場の活動している人たちと、もっと近くなる必要があると思います。「協働型職員」といった感じです。施策をつくるのが行政の役割ですが、現場をもっていない分、出向いて話を聞くことが求められると思います。職員教育にも視点を向ける必要があると思います。

部会長

施策「5-1 情報共有・参加・協働に基づくまちづくり」の内容を強化することになりますか。

事務局

職員に求められるいろいろなスキルも含めて、施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」の主な取組み「人材育成の推進」に含めて書いています。

委員

行政の事業を民間が行う時代になっているという時代認識を、どこかに入れていただきたいと思います。

委員

今回の基本計画では、行政と民間との協働が強調されていますが、それと並行して、ひとつの問題を解決する上での関係団体同士のマッチングや問題解決に至る過程を行政が整理していくことが必要ではないかと感じました。

事務局

第2専門部会に出席いただいた団体から、団体同士のマッチングが重要なので、現在、取組みを進めているのご意見でした。市民活動サロンの業務で、集まってこられている団体をつないでいただいている状況です。同じ分野だけでなく、違う分野の方ともつなぎながら、より相乗効果が高まる事業を展開できるように進めていただいています。

部会長

マッチングの取組みは、行政がすべきなのか、民間（市場）に任せておくべきなのか、どちらに軸足を置くことを考えていますか。豊中市は行政が抱え込むような考え方ではない気がします。ただ、ご意見を聞くと、民間の方では無理だという反応が返ってきたと認識のもと、どうしていくか考えていく必要があります。

事務局

両方大事で、どちらかに決めきれものではないと思うのですが、先ほど紹介しました市民活動サロンは、行政の仕事として民間団体に担っていただいているもので、行政の仕事として行っているマッチングです。他の例としまして、警察や大阪府など行政関係機関と民間団体が集まる協議会のコー

ディネートは、行政が関わる人が多い状況です。民間団体が独自にマッチングを進めているものには、行政としてどういうサポートができるのか考えていかないとと思っています。

部会長

一般論でマッチングが必要だということではなく、テーマによって重点配分的にマッチングや連携を行政が行う必要があるという感じなので、各施策の必要などところに書き込むことはあると思います。テーマごとに、行政のコーディネート力を発揮するところと民間で連携していただくところを分けて、整理していただければと思います。

委員

市民活動団体との意見交換で、リーディングプロジェクトにおいて、南部の小学校が再編されると、北部と南部で違いが出てくるのではないかという心配の意見がありました。私は、リーディングプロジェクトで南部を再構築することで、豊中市全体が「みらい創造都市」に歩いていくようなつくりになっていて良いと思っていました。しかし、この基本計画を市民の方がご覧になられた時、市民活動団体と同じ感想を持たれる方もいるかも知れないと思うと、大きな方針があって、そこからリーディングプロジェクトができていくことを分かるようにしておく必要があると思います。

また、今後10年で行政と民間が協働する部分が増えていくことで、多様なサービスが増えていくと思います。民間は、利益を追求する部分があると思いますので、市民がどのようにサービスを受ければ良いか、行政がつないでいただけると良いと感じました。

部会長

現在、南北格差は既にあり、それを是正していくスタンスでもう少し書けば良いと思います。リーディングプロジェクトに、「まちへの愛着を感じている人の割合」の意識調査のデータを掲載するのではなく、中立的・客観的なデータで他の地域と比較するべきだと思います。

委員

部会長と同意見です。まちへの愛着というのは非常に曖昧な概念で、グラフの解釈がいかようにも取れ、違った意識を広めることになりかねないと思います。建物の老朽化や人口の流出など客観データを掲載した方が、説得力があると思います。

部会長

「公」と「共」は異なり、「共」の部分で今回、将来的に公民連携を期待したいということだと思います。コモン（＝共）を醸成していくような手助け、環境づくりを行政が施策として考えるべきだというご指摘だと思います。

委員

これから行政よりも民間がいろいろな担い手になっていく中で、公は何もしないのではなく、うまくコントロールしていく必要があると思います。

部会長

NPO法人等の会計が、きちんとできていない問題があります。財政面のチェックは、市民ではできない部分です。

委員

これからは民間団体が担い手になる部分が多くなりますが、民間だけに任せるのではなくて、適正な運営ができていくかのチェックをするなど、適宜助言をしていくといった行政のコントロールが必要だと思います。

委員

民間の意味はいろいろあり、先ほどから私が言っている民間は、営利団体をあまり意識しておらず、ヒアリングで集まったような団体をイメージしています。行政が丸抱えするのではなく、非営利の民間とのネットワークのコンセプトも、全体像を書くのであれば入れれば良いと思います。

## 委員

NPOは非営利ですが、悪質な団体もあるのが現状で、どこかで歯止めが必要な気がします。

## 事務局

民間資源を活用していく認識のもと、施策「5-2 持続可能な行財政基盤の構築」の主な取組み「民間資源の活用」の中で、民間だけではなく地域も巻き込んだ地域づくりが求められており、民間と行政のすみ分けということではなく、一体的に協働で進めていけるような仕組みや体制づくりが将来的には必要になってくると思います。

## 部会長

前回の意見交換で社会福祉協議会の方が「丸ごと」について言っていましたが、「丸ごと」は社会福祉協議会がすべきなのか、行政がすべきなのか、どちらがするという意味でしたか。

## 委員

社会福祉協議会は、実施部隊になるかも知れませんが、行政抜きではできないことだと思います。

## 部会長

「丸ごと」の入口を社会福祉協議会にするのと行政にするのとで、内容が随分と変わってきます。行政にすると内容がものすごく大きくなってしまいます。市民の状況によって「丸ごと」の中身が異なります。

## 委員

現在も検討中なので、議論を待たないといけない部分があるかと思いますが、市が丸ごと抱えますといった内容ではないと思います。実施主体としては社会福祉協議会が進めるのですが、非営利団体や学校なども地域のことを自分のことのように考えて地域づくりをしていく、その中で福祉の問題を考えていくといったメッセージはベースにあると思います。

## 部会長

丸ごとを受け付けるのは市ですとしても、対象外は明確にしていくことだと思います。役割分担として連携のコーディネート役は、責任をもって行政がするのではなく、コンサルタントしますといった感じになりますか。

## 委員

基本的人権に関わる部分は行政が行わないといけないわけですが、地域の人で助け合う部分は多くなってくると思います。

## 部会長

基本的人権について、外国人は、観光客ではなく、常住者の外国人の対応を意識して書く必要があると思います。

## 委員

施策「2-1 自立生活支援の充実」ですが、「自立生活」というのが、自助努力を強要するような印象を強く感じます。「地域福祉を基盤とした自立生活支援の充実」になると、もう少し協働感がでてくると思います。「自立生活」だけでは、何でも自分でしてくださいと感ずるので、和らげる言葉が頭につくと良いと感じます。

また、施策「1-2 保育・教育の充実」の主な取組み「ともに学ぶ教育の推進」に、障害のあることもの記載がありますが、この部分に保健・福祉との連携といった内容を少し付加すると、意見交換した団体の意見が反映できるのではないかと思います。

あと、前にも言いましたが、施策「2-2 保健・医療の充実」は、やや分断された感じがあります。今の流れとしては、医療・保健・福祉の連携なので、施策の方向性に「地域医療の充実を図ります。」とありますが、福祉・保健との包括的な医療をめざしていることを少し付け足す必要があるように感じます。主な取組み「在宅医療の推進」に「医療従事者と介護従事者の連携」という文言がありますが、ここも医療・保健・介護の連携といった包括ケアシステムの考えを触れておく必要がある

と思います。また全体として、予防が強調されていますが、高齢化の視点からみると予防だけではなく、終末期をどうするかの見点も少し必要ではないかと思います。

事務局

ご指摘の部分は、検討したいと思います。また、終末期は在宅医療に関連するかと思いますが、検討したいと思います。

部会長

医療保険と介護保険で別立てになっているのが大きな障壁に感じます。行政事務としては、当然分けないといけないので難しいところです。

事務局

包括ケアの考え方からすると、一緒にしても良いのかも知れませんが、まだ本市の方針がきちんと定まっていない状況なので、現在はこういう整理にしています。

委員

団体へのヒアリングの時に、豊中市は、子どもの育ちを中心に日常生活圏域をつくりながら様々な行政計画をつくってきた歴史と伝統があるという話がありましたが、今回の基本計画とも合致しており、今まで培ってきた生活圏域を大事にするということを全体像として触れていただくと良いのではないかと思います。ただ、日常生活圏域の中でできることと、障害者支援などはこの範囲では密度が濃すぎるものもあるかも知れません。

部会長

日常生活圏域の話は、福祉の分野に限って入れるべきだと思います。日常生活圏は都市計画の分野では使わない言葉になりつつあります。学校単位で考えるとすごく広がりますし、東京通勤する人もいますし、人によってテーマによって圏域が様々です。

委員

男女共同参画は、啓発活動が中心に感じるのですが、緊急対応が必要な場合も増えていると思いますので、その対処の実態がどうであるのか、行政の仕事ではあまりないということですか。

部会長

アウトリーチは、かなり難しいようです。相談窓口に来ていただいて初めて対応ができるのが実情です。個人情報が集められないことが大きな原因です。

委員

海外の事例では、DVなどは保育所や医療機関からの発見に力を入れています。

部会長

男女共同参画の問題として考えると難しい部分はありますが、病院や福祉相談の問題ととらえて、横の連携を考えれば良いと思います。

事務局

児童虐待に関しては、個人情報であっても一定関係機関で情報共有できる仕組みが出来ています。DVに関しても、DV防止ネットワーク会議で同様な仕組みがあります。また今後配偶者暴力相談支援センター機能を持つ方向で市は考えています。

部会長

施策「4-1 共に生きる平和なまちづくり」の主な取組み「人権教育・啓発の充実」に、DVのことも入って良いのではないかと思います。

委員

主な取組み「DV予防・防止対策の充実」に、緊急対応も触れると良いと思います。

委員

1/6の子どもが貧困状態にあると言われていています。豊中市では、子ども食堂の取組みなどはどれほど進んでいますか。

事務局

子どもの居場所づくりとして、モデル的に2校区で進めています。校区によって子ども食堂など居場所づくりの取組みを進めています。今後、他校区に広める予定です。その他、地域の団体の方で、子ども食堂を進められている地域もあります。

委員

このような取組みから児童虐待が発見されたりもするので、支援が必要な部分かと思います。

部会長

本日の意見は、事務局の方で整理・検討してもらいたいと思います。

### ●「3. その他」

事務局

次回の日程は5月12日18時～です。場所は追って連絡します。

部会長

これで第1専門部会を終了します。

### ●閉会

## 豊中市総合計画審議会第2専門部会の振り返り

### 1. 全体の構成について

- ・基本計画の各章にサマリーがあるとわかりやすい。

### 2. 第3章 活力ある快適なまちづくり

- ・「3-4 良好な住環境の形成」の主な取組みの「大阪国際空港を活かしたまちづくりの推進」においては、空港は豊中市民以外が利用していることが多いことから、観光を意識したまちづくりの視点も必要である。
- ・豊中市にしかない資源（豊南市場・大阪音楽大学）を活かすことが重要である。
- ・これからの観光は、体験できることも重要な要素となってくる。例えば、ものづくり体験など体験型の観光が考えられるのではないか。
- ・魅力創造・観光には、イベントなどのソフト政策とまちづくりのハード政策の二面性がある。イベントだけではなく、まちづくりが最終目標となる観光に意味がある。
- ・一般的に住環境というと、家の周辺をイメージする。施策の方向性には、都市拠点の内容が記載されているが、施策名称と施策の方向性の内容に違和感がある。例えば、「都市魅力」も組み込んで施策の名称を検討してはどうか。

### 3. 第5章 施策推進に向けた取り組み

- ・様々な人と手を携えながらまちづくりを実現していく上で、いろいろな人たちと連携できる体制を構築することが重要である。
- ・協働事業の記載内容においては、新しい枠組みのCB,SBも含めて活動団体の活動が制限されないような記載であればよい。
- ・「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」は、主に行政改革についての記載が多いため、魅力創造の内容が行政改革として捉えられないようにする必要がある。
- ・シティプロモーションについては、もっと予算をつけて具体的・専門的にまちづくりの施策を打ちだす段階にきている。
- ・「シティプロモーションの推進」においては、外部の人に選んでもらうという視点が必要である。

## 会 議 録

会議の名称	豊中市総合計画審議会 第1回 第2専門部会		
開催日時	平成29年（2017年）2月9日（木） 18時00分～20時00分		
開催場所	第二庁舎3階 大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	政策企画部 企画調整課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	赤井委員、加藤委員、國定委員、宗前委員、廣瀬（史）委員	
	事務局	足立部長、福山次長兼課長、糸井主幹、榎本主幹、佐野副主幹、上野	
	その他	特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ21 事務局長 廣田氏 新千里南町2丁目西自治会 森田氏 一般社団法人豊中青年会議所 理事長 寺川氏 とよなか市民公益活動協議体らっぷ 代表 芳村氏 新千里北町地域自治協議会 副会長 浅野氏 千里ニュータウンFM放送株式会社 取締役 放送局長 向井氏	
議題	1. 市民活動団体等との意見交換 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

# 平成 28 年度 豊中市総合計画審議会 第 1 回第 2 専門部会 議事要旨

日 時	平成 29 年 (2017 年) 2 月 9 日 (木) 18 時 00 分～20 時 00 分
場 所	豊中市役所第二庁舎 3 階大会議室
出席委員	赤井委員、加藤委員、國貞委員、宗前委員、廣瀬 (史) 委員 計 5 名
出席団体	特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 (廣田氏) 新千里南町 2 丁目西自治会 (森田氏) 一般社団法人豊中青年会議所 (寺川氏) とよなか市民公益活動協議体らっぷ (芳村氏) 新千里北町地域自治協議会 (浅野氏) 千里ニュータウン FM 放送株式会社 (向井氏)
事務局 傍聴者 案 件	政策企画部企画調整課：足立、福山、糸井、榎本、佐野、上野 0 名 1. 市民活動団体等との意見交換 2. その他
資 料	○ 次第 ○ 【資料 1】市民活動団体調査結果一覧表 ○ 【資料 2】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画 (素案) ○ 【参考 1】第 1 専門部会座席表 ○ 傍聴者アンケート
会 議 録	下記のとおり

## ●開会

## ●資料・趣旨・団体紹介について

事務局

(資料・趣旨の説明と団体紹介)

## ●「1. 市民活動団体等との意見交換」

部会長

本日、市民活動団体等の皆さんと「第 4 次豊中市総合計画前期基本計画 (素案)」について、意見交換をさせていただきます。

市民活動団体等の皆さんには、15 分程度のお時間の中で、審議会委員から質問をし、意見交換をさせていただきますたく思います。

それでは、専門部会の進め方について事務局より説明をお願いします。

事務局

(専門部会の進め方の説明)

部会長

それでは、とよなか市民環境会議アジェンダ 21 へのご質問をお願いします。

委員

貴団体は、20 年前に立ち上げられたと記憶しています。会議や勉強会を欠かさず実施しており、熱心にご活動されておられます。

豊中市は緑が豊かで、立派な公園もあり、高く評価されていると認識していますが、資料 1 の「まちの課題」では、緑の質を課題としてあげておられます。この緑の質とは、具体的には何をさしていますか。

## 特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21（以下「市民環境会議アジェンダ 21」とする）

豊中市が公表された直近の緑被率、市域面積に対する樹木等の割合ですが、13.1%から14.4%に増加しており、緑の量としては増えています。一方で、市民にとって望ましい風景や景色、環境などを選んで「とよなか百景」には、開発等で失われているものもあります。例えば、上新田では住宅開発に伴い、豊かな緑地や竹林がなくなったり、別の場所では特殊な地層が見られなくなったりしており、量では測れない魅力的な緑が失われています。

「豊中市史 自然編」では、豊中市内には1,000種類以上の植物が存在していたという記録があります。しかし、当団体が行った植物調査では、1,000種類以上のうち、50以上の植物の種類がなくなっていることが分かりました。

緑の量だけで言えば、前回調査よりも1.3%増えているのかもしれませんが。しかし、木が増えたというわけではなく、街路樹等が成長し、枝が広がることによっても数値上、緑被率は高まることとなります。単純に緑の量が増えたら良いというのではなく、どういった緑が残っているか、あるいは増やしていけるか、その点にもう少し焦点を当てても良いように思います。しかし、豊中市では、その点についての調査は行っておりませんし、計画も持ち合わせていません。

他方、国は生物多様性基本法をつくり、努力義務ではありますが、地方自治体において、生物多様性の保全に関する戦略を策定するよう促しています。私たちとしては、そうした戦略を作り、量だけではなく、種についての調査等を行っていただきたいと考えています。官だけでできないところは民と協働するなどしながら、次期総合計画には、よりレベルの高い取組みを進めていただければと思います。

先日、民間のシンクタンクが全国の自治体を対象に生物多様性についての調査を行い、ランキングを公表しました。結果としては、豊中市は上位にかすりもしなかったのですが、隣の伊丹市は全国で上位に位置付けられていました。伊丹市は生物多様性に関する計画等を作って、それに基づいて行動されており、生物にとって魅力のある自治体であると評価されていました。次期総合計画には、緑の量だけではなく質に対して市がどう考えているか示してほしいと思います。

## 委員

「資料1」の「まちの課題」の2点目に「地球温暖化対策の具体的施策が弱い」とありますが、具体的にどう弱いと感じていますか。

## 市民環境会議アジェンダ 21

私は環境基本計画の委員として関わっており、そちらでも議論になっていますが、豊中市では環境基本計画とは別に、地球温暖化防止に重点を置いた計画も作られています。その計画が、始めに作られたのは2007年で、その中では、市民や事業者の省エネを進めるための戦略が4つほど掲げられていました。それには、当時、全国的に見ても先進的な取組みが含まれていました。2011年の東日本大震災以降、全国的に省エネや温暖化対策に統一性がなくなってきており、なにが先駆的な取り組みなのかということが全国的に分からなくなってきている側面もありますが、豊中市として今までしていることは引き続きするとしても、これまで以上の新たなアイデアが生まれていないように思います。逆に言えば、市民等に省エネの取組みが根付いているからという側面もあるのかもしれませんが、そう感じています。

## 部会長

「第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）」に、今のご意見の趣旨に合うものとしては、p. 28、29あたりに記述があります。書込みが足りないなど、文面についてご意見はありますか。

## 市民環境会議アジェンダ 21

書かれていないことはないですし、総合計画なので、全体を包括したような書き方になるのは分かりませんが、総合計画、また、分野別計画においても、記述に物足りなさを感じています。

## 部会長

そういう趣旨なら良いのですが、たまに記述内容が時代遅れという指摘があるので、確認させていただきました。総合計画は未来に向けた計画ですので、時代遅れの考え方は載せるべきではありません。もしそういった記述があればご指摘いただきたいと思います。

## 市民環境会議アジェンダ 21

時代遅れということではありませんが、p. 29の「自然環境や都市のみどりを身近に感じられる快適な環境づくりを進めます」の「主な取組み」として5つ挙げられていますが、この順序には少し違和感があります。豊中市が取組むべき優先順位はこの並びではないように感じています。

## 委員

先ほどご指摘いただいた p. 29の「主な取組み」の順序ですが、個人的な思いで結構ですので、例えばどういう順序が良いと思いますか。

## 市民環境会議アジェンダ 21

分野別計画の順序に揃えるというのが1つあるかと思います。現在、分野別計画では、「公園緑地の整備・充実」「多様な生物の生息空間の保全・創造」「農地の保全・活用」「都市緑化の推進」といった順番になっていますので、それと対応させても良いのではないかと思います。

もう1つの提案としては、実施主体ごとに順序を入れ替えるという方法も良いかと思います。例えば、「公園緑地の整備・充実」は公的な取組みの側面が強いかと思いますが、「都市緑化の推進」や「多様な生物の生息空間の保全・創造」は行政が市民団体と協働しながら取り組んでいます。市民団体等との協働があるものとないものの違いが分かるように並べ替えたり、整理するのも良いかと思います。

また「協働」という言葉の使い方も気になります。例えば p. 31の「廃棄物の減量と3Rの推進」ですが、分野別計画では確かに「市民・事業者・行政による協働の取組みを進めます」と書かれているのですが、廃棄物の減量については、事業所への対応等の必要があり、協働というよりも、行政の役割が大きい分野ですので、協働という言葉が大きく打ち出すべきなのか疑問に思います。協働という言葉の使い方については、全体を通して、少し気になりました。

## 委員

総合計画と分野別計画の方向性やポリシーが一致していることが重要だというご指摘だと理解してよろしいですか。

## 市民環境会議アジェンダ 21

始めの委員のご質問は、現行の分野別計画にも書かれていない部分ですので、豊中市として次期総合計画でどう考えているのかということを反映いただければと思います。後者につきましては、ご指摘のとおり、整合性をとってはどうかと思います。

## 部会長

全体に関わることですが、今、基本計画（素案）に掲げている「主な取組み」の順序ですが、上にある方が上位で下が下位ということではなく、並列で扱っているとはご理解いただければと思います。

続いて、新千里南町2丁目西自治会へのご質問をお願いします。

## 委員

まとめて2点お伺いしたいと思います。

まず、資料1の「活動概要」の内容として「景観形成推進地区の指定を受けた」と書かれていますが、特徴的なことやこれまでの経緯があれば、教えてください。

2点目ですが、「まちの課題」や「必要な取組み」にあげられていることと、「協働して担えること」が書かれてないので、それも含めてもう少し詳しく教えてください。

## 新千里南町2丁目西自治会

1点目の、景観形成推進地区の指定を受けた経過ですが、昭和38年頃に千里ニュータウンが開発されまして、北町、西町、南町とまちびらきされて、合計8つの自治会があります。最初、大阪府企業局が開発したときに、購入者に対して、10年間の建築条件をつけていました。建築条件が失効する10年後、8つの自治会が集まり、これに変わるものをつけなければいけないと話し合いました。当時、思いついた手法が建築協定だったのですが、建築協定は建築基準法で決められているように、100%の同意が必要です。しかし、3,000世帯をまとめるのはとても無理で、最終的にアンケートを取ったところ、80%の同意しか得られませんでした。そこで、今度は街区ごとで建築協定を結んではどうかと考えました。ですが、どこかで白抜きがでてきて、不公平感が生まれるということで、苦肉の策として、大阪府の当初の建築条件を各自治会で、申合せ事項ということで決議し、これを守ってきました。しかし、これはあくまで紳士協定ということでしたので、どうしても守られないところが出てきます。特に不動産屋が仲介した場合、その条件を知らせないまま、売却してしまうことが起こり、例えば、「宅地を2つに割ってはいけない」という条件を知らずに売買され、分割されるということが私の自治会内でも3件起こってしまいました。これ以上、分割した敷地を増やしたくないということで、各自治会で活動を行い、新千里南町2丁目西自治会では、行政と相談させていただき、市の景観協定という制度を利用させていただくことになりました。しかし、アンケートの結果、これも80%の合意が取れなかったので、協定の締結にはいたりませんでした。そこで、他の方法について、自治会でも検討をしまして、地区計画を定めようということになりました。市に相談したところ、市からコンサルタントの派遣などご協力いただき、やっと地区計画を定めることができました。この勉強会の中で出てきた意見が、色の問題でした。当時、東京で漫画家の家が話題になっていた頃でしたので、そのような奇抜な家が出来たら困るということで、色を定めようということになりました。塀を高くしないとか、生け垣を作ろうといったような要件も、景観形成推進地区の地区計画に盛り込めないかと勉強しまして、何とか盛り込むことができました。

「まちの課題」ですが、私どもの地区は新市街地なので、道路も敷地も広く、きれいに整備されています。しかし、豊中市全体で言いますと、狭小宅地と狭あい道路が課題となっているように思います。また、私たちも一度、道路の無電柱化について関西電力と話をしたことがあるのですが、ケーブルテレビとの協議等、なかなか難しいようでした。「協働して担えること」ですが、先ほど申しました、道路の無電柱化、これが可能であれば実施してみたいと考えております。もし可能であれば、豊中市のモデル地区として、推進していただけたらと思います。

## 委員

豊中市で無電柱化しているところはありますか。

## 事務局

豊中駅近くに大池小学校がありますが、その前の府道では無電柱化を行っています。

## 委員

それは市の予算でされたのですか。

## 事務局

大阪府の予算です。

## 新千里南町2丁目西自治会

関西電力に協議の話を持っていったことはあるのですが、断られました。

## 部会長

昨年あたりから関西電力は自治体からしか仕事を受けなくなったようです。民間からは受けないみたいですから、協議をしていくのは大変かと思います。

今回の総合計画では、「南部地域活性化プロジェクト」をリーディングプロジェクトにあげています。南部地域をリーディングプロジェクトとして取り上げるということについて、どのように思いますか。

#### 新千里南町 2 丁目西自治会

狭小宅地や狭あい道路の問題は建築基準法など、いろんな法律が絡んでくるので難しいと思います。条例等で定めないと、単なる行政指導では限界があると思います。狭あい道路を広げるということは道幅を 4m にするというのですが、今は 2m や 1.8m の道路が多い状況です。建築基準法では「後退したもののみならず」というような適用除外的な規定があるため、行政指導を超えた条例なりを整備できればと思います。

#### 部会長

南部地域に重点的に豊中市の予算をつけるということについては、どう思われますか。

#### 新千里南町 2 丁目西自治会

特に問題ないように思います。

#### 部会長

続いて、一般社団法人豊中青年会議所へのご質問をお願いします。

#### 委員

豊中青年会議所のホームページも拝見しました。ホームページには「豊かな社会の実現」などが書かれていますが、豊中青年会議所としては地域の発展にどのようなかたちで寄与されているのか、もう少し具体的な取組みを教えてください。

#### 一般社団法人豊中青年会議所（以下「青年会議所」とする）

地域の発展を担うのは誰かと考えた時、それはやはりそこに住んでいる市民だと思います。青年会議所では「地域社会の健全な発展を目的とする事業」「指導力啓発の知識及び教養の習得と向上並びに能力の開発を促進する事業」「国際青年会議所と公益社団法人日本青年会議所との連携に基づく事業」「その他、当法人の目的を達成するための事業」という 4 つの事業に取り組みながら、自らが成長し、地域と向き合って、何を考えていかないといけないかを学んでいます。40 歳で脱退することになっていますが、40 歳を超えてからも青年会議所で学んできたことを糧に、地域に貢献しています。

#### 委員

具体的な取組みとしては、「とよなかキャンドルナイト」や「わんぱく相撲」、「JC カップ」などスポーツ振興や青少年育成などということによろしいですか。

#### 青年会議所

地域の活性化のためにそういった取組みを行っていますが、それをする過程の中で、メンバー自身が人間力を高めて、地域と向き合っていくということを軸に置いて活動しています。

#### 委員

40 歳で脱退ということですが、豊中商工会議所に比べると非常に若いメンバーで構成されていると思います。若い事業者として、豊中市の産業振興に関して、どういった取組みがあればいいか、要望や意見があればお聞かせください。

#### 青年会議所

メンバーが多種多様な職業をしていますので、一概には言えませんが、豊中市を産業として発展させるのであれば、人と人がつながっていくような場や、ビジネスについて考えられる機会がたくさんあれば良いと思います。

## 委員

豊中市には「とよなか起業・チャレンジセンター」がありますし、豊中商工会議所でされていることとも重なる部分があるのかもしれませんが、創業しやすい環境づくりについての要望等や意見があればお聞かせください。

## 青年会議所

現状、同業の仲間や仕事でお付き合いのある方の親族など、身近なところから地元で仕事をさせていただいているのだから、地元をもっと良くしていくための活動を一緒にしていこうと声をかけて、メンバーを増やして、ネットワークを広げて、活動を行っています。どういう職業の方がどこで何をされているかという情報が分かりませんので、飲食店のオーナーさんなどに飛び込み営業のようなかたちで、お話しして、仲良くなって、声かけるということもしています。しかし、人づてやマンパワーを使って活動の輪を広げていくのも限界があるように感じていますので、異業種交流の機会などがあれば良いと思います。

創業しやすい環境づくりということであれば、独立意欲を持っている若い人が集まれるような場があれば良いかと思います。独立したいとは思っているがどうしたら良いか分からない人や、アイデアはあるけど資金がないという人たちを支援できる仕組みができれば良いと思います。

## 委員

商工会議所もマッチングなどをしてはいますが、若い方を対象にしたということですか。

## 委員

商工会議所も市も、思いは同じだと思います。

## 部会長

青年会議所の仕事をよく知っているわけではないですが、横のネットワークができるきっかけの1つに、イベントがあるという話をよく耳にします。資料1の「必要な取組み」として「国際化」「音楽・スポーツ」「防災」「教育」の4つをあげていますが、とりわけ総合計画に位置付けて、力を入れていったら良いと思うものがあれば、ご意見をいただければと思います。次期総合計画では「明日がもっと楽しみなまち」を掲げていますが、その視点ではいかがですか。

## 青年会議所

「明日がもっと楽しみなまち」ということであれば、「防災」「教育」というのは常に考え続けなければいけない課題かと思います。「音楽・スポーツ」に関しては、豊中市が「豊中ブランド戦略」で「音楽・スポーツ・文化環境の充実」という方向性を打ち出されていますが、我々も同じ方向を見て、独立しているからこそできることをして、市の動きをバックアップしていこうとあげさせていただきました。とりわけ総合計画に位置付けていくべきだと思うのは、「国際化」だと考えています。去年は過去最高となる2,400万人もの外国人の方が日本を訪れていますし、国としても東京オリンピックが開催される2020年に4,000万人、2030年に6,000万人の来訪をめざして取り組んでいます。国際化と言っても枠は広いですが、豊中のまちがグローバル化して、世界基準で物事を考えているまちであると、魅力的ではないかと思います。

## 委員

大阪の黒門市場には、アジアの方を中心に多くの外国人の方が来訪されています。そういう状況を見ていると、青年会議所のような若い力で庄内の豊南市場で同じような取組みができないかと思うのですが、いかがですか。

## 青年会議所

それは1つのアイデアとして良いと思いますし、取組むことになれば青年会議所としても協力したいと思います。

実は今月、豊中市在住の外国人の方をお呼びして、「外国人から見た豊中の変なところ」についてディスカッションを実施します。結果として、豊中市に何か提言することも考えています

が、まずは日本人が思い浮かばないような外国人の視点や発想を吸収する機会を作って、その後、国際化に向けた大きな取組みをしていきたいと考えています。

大阪国際空港におそらく外国人はたくさん来られていると思いますが、シャトルバスでそのまま大阪市に行ってしまう方がほとんどだと思います。今はまだ外国人の方に豊中市に足を踏み入れてもらうような仕組みが作れていないので、そうした流れを新たに生み出していくのも面白いと思います。

#### 部会長

続いて、とよなか市民公益活動協議体「らっぷ」へのご質問をお願いします。

#### 委員

私は豊中市外ですので、基本的なことをいくつかお聞きしたいと思います。とよなか市民公益活動協議体「らっぷ」は市民活動団体をサポートする団体という理解でよろしいですか。

#### とよなか市民公益活動協議体らっぷ（以下「らっぷ」とする）

はい、そうです。

#### 委員

豊中市の市民活動団体を網羅的に把握されているわけではないと思いますが、活動を通じて、いろいろな団体とお付き合いがあると思います。その中で、豊中市において団体数が多いと感じる分野は何かありますか。

#### らっぷ

市民公益活動で言えば、福祉分野が多いように思いますし、昨今は子どもを中心にした子育て分野も多いように思います。

1点訂正です。資料1の「まちの課題」の、「地縁型組織は他市と比べ活動量が多い」とありますが、「活動率が低い」の間違いです。豊中市は自治会に入っている人の数が少ないという特徴があるかと思えます。

#### 委員

自治会自体はあるけど、そこに加入している人が少ないということですか。

#### 部会長

ちなみに、自治会加入率はどれくらいですか。

#### らっぷ

47%程度だと思います。

#### 部会長

普通かもしれません。大阪市は確か40そこそこだったように思います。

#### らっぷ

昔からお祭りなどの伝統文化が根付いているところでは、自治会加入率が8割9割ありますので、そういった地域と比較すれば、加入率は低いと思います。

#### 委員

子育て系の団体が多いということですが、それはやむにやまれずと言いますか、子育てに関する課題に強い関心を持って、組織を作られる方が多く、そうした団体が増えてきたということですか。

らっぷ

子育て系の団体は増えています。子どもを中心とした市民公益活動は、自主自立型でサイクルを回していけますので、増えている要因としてはそういうこともあるかと思います。

委員

JCは40歳という制限があるようですが、子育て団体のスタッフは、自分の子どもが大きくなると卒業してしまったり、あるいはスタッフが入れ替わったりすることはあり得るのですか。

らっぷ

あり得ると思います。

委員

循環が続いている時は活動量を維持できますが、何らかの要因で循環が滞ってしまうと活動も縮小してしまうと思います。市民公益活動を続ける上で、課題などは何か感じていますか。

らっぷ

市民公益活動や地縁型の活動を行っている団体は、人材的・資金的にサイクルが回らないと、活動が疲弊してしまうことがよくあります。資金面ではよく言われるように、CB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）をしていきながら、負担を減らしていくことも必要かと思います。子どもの支援を行うような団体の中には、そういったビジネスモデルを構築して、自立的に回していけるところも出てきています。そうした団体は公益的な団体でありながら、一企業としての側面もありますから、継続的に活動を行えると思います。一方で、誠意と汗と時間を使って頑張っている団体は、どこかでサイクルが回らないようになり、活動が疲弊し、衰退していきます。

委員

活動を継続していくためには、サイクルを回せるようにどこかのタイミングである種のトランスフォームが必要だということだと思います。

資料1の「内容」としては、情報の受発信や研修、コンサルテーション、それからマッチングなどを行われていますが、これらは市民公益活動団体が自前ではなかなか補えない部分と言えますか。

らっぷ

自主自立型でサイクルを回していける団体、補助等を継続して受けないことには活動がままならないような団体、法制化が必要な団体など様々な団体がありますが、相対的にマネジメント力が低下しているように思います。よって、中間支援というかたちで、団体のニーズに合わせたフォローをしていく必要があります。活動の2、3割はそうした取組みを行っています。

委員

官と民の間の中間支援組織として「らっぷ」のような団体が必要ということですか。

らっぷ

そうです。資料1で「とよなか起業・チャレンジセンター」は名前のとおり、起業する方が対象です。「らっぷ」の対象は、市民公益活動です。豊中には、自主自立型でCB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）を行っていかようとしている団体を直接支援できる場所がありません。「らっぷ」が市民情報活動サロンを運営して4年になるのですが、3年目まではわれわれもCB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）を行っていかようとしている団体の支援を行うことが認められていませんでした。市民公益活動とは区別しなければいけなかったわけです。一方、「とよなか起業・チャレンジセンター」の方と色々とお話をさせていただくと、やはりCB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）はサービスに対する対価が少なく、ビジネスとして回していくことが難しく、起業支援とは少し違うということでした。

た。しかし実際には、CB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）の公益活動分野とビジネス分野の中間に位置するような、つまり「らっぷ」の射程にも「とよなか起業・チャレンジセンター」の射程にも収まらないような団体が非常に多く、そうした団体を何とか支援できるようにしたいということで、市民情報活動サロンの射程を広げて、今年から、そうした団体も支援できるようになったという経緯があります。また、「とよなか起業・チャレンジセンター」とも、個別で支援をしていこうという話もしています。

今後、CB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）の重要性は高まると思いますが、そうした団体をいかに支援していくかが総合計画には書かれていないように思います。

#### 委員

私の理解では、基本計画の第5章「施策推進に向けた取組み」は特殊な役割を持っていて、他の章で書かれている医療や福祉や教育などと違って、ダイレクトに市民に影響を与えていくというよりは、仕組みや体制づくりに焦点が当てられています。協働や地域自治、担い手育成などについても書かれていますが、この部分を読んでどのように感じられましたか。

#### らっぷ

CB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）の支援についての記載がある、もしくは含まれている箇所というのが分かりませんでした。

#### 部会長

中間支援組織やCB（コミュニティビジネス）、SB（ソーシャルビジネス）の支援あるいは強化策ということであれば、p. 48、49のどこかに盛り込むということになると思います。個人的には「地域課題の共有を図り、協働によるまちづくりを推進します」などと思います。

#### 委員

今言われたことが盛り込まれると、中間支援を行う団体として助かるということですか。

#### らっぷ

はい。ニーズがある一方で、現状、そういった記述がないので、総合計画には盛り込む必要があると思います。今後、地域の課題は多種多様化していきますし、地域の負担も増えていきます。そうするとCB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）をやるような自主自立型の団体が地域で活躍していくことが求められますので、その支援あるいは強化策については盛り込んでおくべきだと考えます。

「らっぷ」はどちらかというと、テーマ型の団体を支援しています。テーマ型の団体は特定のテーマに対して深い活動をしています。地縁型の団体というのは1つのテーマではなく、色んな問題点を持っており、幅の広い活動を行っています。地縁型の団体は幅広い活動を行っている分、いろんな分野の問題に直面するのですが、その時に、特定の分野に対して深い活動を行っているテーマ型の団体とマッチングさせることで、課題解決を促せることもあると思います。そうしたテーマ型と地縁型の団体のマッチングというの、必要ではないですか。

#### 委員

資料1の「内容」に「NPO等と地縁型組織とのマッチング」がありますが、これは現在、「らっぷ」としてもしているし、豊中市としてもっとしなくてはいけないということですか。

#### らっぷ

そうです。テーマ型組織も、顧客は地域の人です。一方、地縁型組織というのは幅広い活動を一生懸命されていますので、どういう団体がいて、どういう活動をされているのかをあまり分かっていません。その両者をタイミングよく上手くマッチングする仕組みというのが重要だと思いますし、まずはお互いに知ってもらうようなところから始めるべきだと思います。

**委員**

例えば、「らっぷ」ではどのようなマッチングをされていますか。

**らっぷ**

市は、いろいろな分野で地域に行き講座等をされています。市民情報活動サロンの団体情報に掲載されている団体が120弱あるのですが、それぞれの団体が、どんなスキルを持っていて、どんなことができるのかを一覧にして、地域の皆さんにお配りし、必要な時に声をかけられるような仕組みを作っています。市の出前講座と同じようなかたちで、「市民活動出前講座」と呼んでいるのですが、結構な数の反響があります。今までテーマ型組織とのルートがなかった地縁団体でも、必要なことを必要な時に、テーマ型組織から深いレクチャーを受けることができるので、非常にマッチングがうまくいっています。

**委員**

住民が直面した課題を扱っているテーマ型組織を派遣すれば、マッチングが上手くいくということですね。

**部会長**

続いて、新千里北町地域自治協議会へのご質問をお願いします。

**委員**

私は豊中市外ですので、基本的なことをいくつかお聞きしたいと思います。自治協議会というのは自治会と同じような組織との認識で良いですか。

**新千里北町地域自治協議会**

自治会と課題別、世代別団体、例えば老人会や福祉委員会、PTAなどとの連合会です。

**委員**

こうした組織というのは豊中特有のものですか。

**新千里北町地域自治協議会**

自治会活動が疲弊してきて、特に戸建ての自治会は高齢化が進んでおり、役が回ってきたら脱退するという状況もあります。以前から、地域連絡協議会のような会議も持っていましたし、防犯委員会のような豊中市からの連絡事項等が降りてくる課題別の会議もありましたが、それぞれ別々に活動していました。それを1つに束ねて、大きな協議会とすることで、活動を円滑にし、それに伴い補助金をつけるという制度がありまして、7つの地域を束ねて、地域自治協議会を立ち上げました。こういった取組みは豊中市に限らず、全国的に行われています。

**部会長**

神戸市では、地域自治協議会を制度化しようと取り組んでいますが、なかなか広まっていませんので、新千里北町地域自治協議会は成功事例だと言えます。

**委員**

私は地域自治協議会を詳しく存じていなかったのですが、豊中市は先進的だと聞いていました。当事者は普通に取り組んでいるだけと思われるかもしれませんが、他はあまりうまくいっていないということですか。

**部会長**

これまで別々に活動を行っていた組織を束ねるのは、お金の窓口を一本化していこうという方向ですか。

### 新千里北町地域自治協議会

従来、豊中市の福祉や警察、消防などから地域の各組織に情報等がきていたのですが、それをまとめようということで、豊中市でもコミュニティ政策課という部署を作られて、取組みを進めてきているわけです。現状、地域自治協議会と各組織が共存しているかたちになっており、豊中市からは今までどおり、各組織にも情報等を提供しています。窓口の一本化は未だ図れておらず、二重性がある状況です。地域自治協議会ができて3年くらい経っていますが、今はまだ過渡期だと思います。

### 委員

行政の末端機能のような組織は従来通り残ったままで、地域自治協議会と共存しているということですが、組織運営の円滑化を狙ったはずなのに、各組織の機能も仕事も減らない状況が続いているということですか。

### 新千里北町地域自治協議会

そうです。皆さん、各組織の役を兼務しています。新千里北町地域自治協議会の会長は18の肩書きを持っています。

### 委員

現在の状況だと、協議会としてのマンパワーが枯渇するという可能性はありますか。

### 新千里北町地域自治協議会

その点は、楽観視しています。豊中市には各小学校区に公民分館を設置する公民分館制度という独特の制度があります。その公民分館は取組みがうまくいっている地域もあれば、うまくいっていない地域もあります。私どもの地域では、仮に公民分館活動が年間10くらいあったとすると、そのうちの2つ3つはしますけど、その他はやりませんという条件で、地域自治協議会の会長が公民分館長を兼務し、地域自治協議会の事務局長が公民分館の事務局長を兼務するといったように、うまく実施活動にフィルターをかけていけば、良いのではないかと考えています。本来であれば、豊中市にそのフィルターをかけていただければありがたいのですが、予算がついてまわるものなので、なかなか難しいとは思っています。

### 委員

基本計画の第5章には、協働や地域自治を掲載していますが、地域自治活動をされている立場として、記載内容をもう少しこうした方が良いであるとか、こういう記述も盛り込んでもらえるとか助かるなど、ご意見をいただければと思います。

### 新千里北町地域自治協議会

全体的に分かりにくいように思います。

### 委員

p.49の「多様な人たちが関わる地域自治の推進を図ります」というところが、地域自治協議会や自治会の関係が強いところだと思います。この計画が動き出した時に、地域活動がしにくくなるようではいけないと思いますので、現場の声を聞かせていただければと思います。

### 新千里北町地域自治協議会

地区によって補助金額が決まっていると思います。新千里北町地域自治協議会では250万円くらいありますが、使い切れていません。補助金は新しい活動に使えて、従来の活動には使えないという制約があります。

地域自治協議会を立ち上げるのに、1年半くらい、豊中市の方とコンサルタントと一緒に、ラウンドテーブルをしながら、議論をしてきました。その過程で、まちの中から先進的な人たちが出てきて、地域の担い手が入れ替わりました。わたしもその一人です。立ち上げまでの過程でラウ

ンドテーブルやブレインストーミング、まちあるきをして、それが楽しくて抜けられなくなって、役を引き受けているのですが、今も楽しく活動させていただいています。

今は新しい人たちに入れ替わって、新しいことに取り組んでいます。それは補助金が見つからないからなのですが、新しいことを考えるということが役を持っている人たちの1つのモチベーションになっているという側面があると思います。先ほど、誠意と汗と時間を使って活動している団体という話がありましたが、まさにそれだと思います。

## 部会長

地域自治協議会のめざすところは、住民代表機能を持った組織でそれを活動に結びつけていく、つまり地域政府の確立にあるのだらうと考えます。すでに北九州や名張などでされているところがあるのですが、選挙があって、地域の代表者が住民に認められて、なおかつ補助金を再配分し、適切な活動をしようとする団体とする考え方です。しかし、そのためには人材がものすごく必要になるので、うまくいっていないところが多く、豊中市においては地域政府のようなものの可能性あるいは必要性についてどのように思われますか。

## 新千里北町地域自治協議会

選挙で役員を決めることはしていません。誰もやり手がいないので、来年度も私たちがすることになっています。地域の担い手は不足しています。

担い手不足に関してすごく感じますが、私は非常に恵まれていると思います。両親の介護もいらないし、特に困ったこともなく、私自身も健康で、会社を定年になって、昔ほどバリバリ働かなくても良くて、地域のお手伝いができる状態にあります。しかし、定性的、普遍的には、私のような人はあまり多くないと思います。昔は定年も55歳で、年金もたっぷりありましたが、今は定年も65歳で、年金も減っていますので、定年だからといって働かないと食べていけない人がほとんどだと思います。それは男性も女性もそうです。昔は専業主婦もいましたが、今は減っています。両親の介護が必要な方もいますし、昔のように定年後は悠々自適で、地域でボランティア活動ができるという状態の人がなかなかいないというのが実態だと思います。担い手を探そうにも、できる状態の人がいない。そうした課題があらうかと思っています。

## 部会長

続いて、千里ニュータウンFM放送（株）へのご意見をお願いします。

## 委員

FMはメディアですし、情報発信のツールだと思うので、今、本当に重要になってきていると思います。豊中市はどういう状況か、行政として何をしているのかということ、放送を通じて市民に知ってもらい、市政に関心を持ってもらうためには重要なメディアだと感じます。先ほどホームページなどを拝見していると、向井さんのインタビュー記事なども載っていたのですが、私は大阪大学に在籍していて、最近、市民向けのイベントなどをしたのですが、FM千里のことを知っていれば、こういうところでも宣伝ができたかなと思います。市民の方に関心を持っていただき、考えていただくことは難しいと思うのですが、それに関連していくつか質問させていただきます。

資料1の「まちの課題」として「他市から見た豊中のイメージの明確化」、「必要な取組み」として「住民自ら豊中市の良さを語る」ということを書かれていますが、イベントなどで他市とも情報共有されていると思うのですが、他市と比べて豊中市の市民はどういうものに関心を持っているのか、どういう良さをどういうふうに語れば関心をもってもらえるのか、お聞かせいただけますか。

あと、FMを聴いてもらうために色々と工夫をされていると思うのですが、聴いた人が情報を受け取って、一市民が豊中市のためにどうすればいいかを考えるためには、どういった工夫が必要ですか。

## 千里ニュータウンFM放送（株）（以下「FM千里」とする）

FM千里は、今年で10年を迎えます。コミュニティFMということでお話をいたします。

良さを語る方法に関してですが、近畿の各放送局、約30局が集まる会議を3ヶ月に1回くらいしますが、放送局を行政と一緒に立ち上げたところは、市の情報が充実していますし、市民の皆さんも積極的ですし、「われわれのまちはこういうまちなんだ」ということがはっきりと明確に打ち出せているところが多いように思います。しかし、FM千里は行政と一緒に立ち上げた放送局ではありません。豊中に住んでいる人がどう思っているのか取材の中で聞くこともあり、「なんで豊中に住んでいるのですか」と聞くと、「住みやすい」ということをすごく挙げられます。また「学力が高い」という意見も多くあります。通勤族の方にお話をうかがったりすると、「豊中市は学力が高いから、子どもを育てる環境が良いと思って選んだ」という話も聞いたりします。しかし、それをキャッチフレーズのようにしていくのは難しいと思います。他市でも教育については取り組まれていますし、差別化していくのは難しいと思います。何か豊中市の良さを表す言葉や表現、豊中市の良さを語れるようなキャッチフレーズなどができれば、まちとしてのイメージを明確化できますし、ラジオを通じたアピールや、市民の方も発信できるようになるのではないかと思います。

先ほど、豊南市場を黒門市場のようにしてはどうかというアイデアが出ていましたが、おもしろいなと思いました。今、北摂で訪日外国人旅行者の方に人気の市はどこかご存知ですか。池田市です。SNSで情報が拡散されていて、インスタントラーメン発明記念館や五月山動物園にアルパカを見に行くという方が多いそうです。黒門市場でも、ある食べ物を食べたら会員証のようなものを発行するという取組みをされていて、訪日外国人旅行者の方がそれを目当てに訪れて、SNSで情報を発信し、さらなる来訪を促すという循環ができています。豊南市場でもそういった取組みができれば良いかもしれません。南部地域に住んでいる皆さんにもインタビューしたことがあるのですが、悪いことは聞いたことがありません。会合などにも参加させていただくことがあるのですが、どうしたら豊中市がもっと良くなるか、熱心に考えている方が多いと感じます。何か1つのフレーズがあれば、市民もまとまることのできるのではないかと思います。

聴いてもらう工夫ですが、2015年に新千里東町、西町、北町、南町の自治会の方と交渉して、3ヶ月ずつボランティアで番組を持ってもらいました。そうすると「私が出るから聴いてよ」と宣伝してくださり、それぞれの地域で多く視聴されました。実際に地域の方にご出演いただいて、そのつながりで視聴を増やしていく。これが1つの聴いてもらう工夫ではないかと思います。

FM千里は10年していますが、まだまだ知っていただけていないというのが現状だと認識しています。昨年の豊中市の広報誌に「豊中市にあったらいいもの」を聞くアンケートの結果が載っていましたが、「コミュニティFM」の割合が高くてまだまだだと改めて感じました。

#### 委員

コミュニティFMは、豊中市では千里だけですか。

#### FM千里

そうです。

#### 委員

FM千里は、豊中市全域に届かないのですか。

#### FM千里

はい。インターネットでは視聴していただけます。

#### 委員

南部では聴けないので、基本的には北部の人向けの番組内容になっているということですか。

#### FM千里

アンテナの関係でそのようになっています。

#### 委員

南部地域にもコミュニティFMがあっても良いと思いますが、簡単にできないですね。

**委員**

視聴人口はどれくらいですか。

**FM千里**

総務省からの認可では、豊中市、吹田市、茨城市、箕面市の各一部市域が視聴エリアで、約5万世帯、約13万人くらいが対象となっています。

**委員**

意外と狭いですね。私は六甲から三田に通っていますが、有馬を抜ける時、西宮のコミュニティFMがよく入ってくるので聴いていますし、三田のコミュニティFMも聴いています。

**FM千里**

エリアを拡大しようという動きも、少しずつしています。

**委員**

出力をあげるということですか。

**FM千里**

アンテナの位置を変えることを検討しています。豊中市は空港があるので、空港の電波を干渉してはいけないため、あまり電波を飛ばしては行けなく、アンテナの位置を高くして、電波を弱く出せば、エリアを拡大できる可能性があり、今、その検討をしているところです。

それとコミュニティFMが一番役に立つのは、災害時だと思っています。有事の時に役に立たないコミュニティFMは意味がないという思いもありますので、そのための動きもしております。東日本大震災や熊本地震など大きな災害が起こると、年配の方が放送局に来られて、「このへんで地震があったら、おたくのラジオ聴けばいいんやね。聴き方教えて。」と言われます。災害時に頼りにされるということがすごく嬉しくて、聴き方を教えますが、有事に備えて、日頃から防災情報等をご協力いただきながら放送もしています。

**部会長**

豊中の南部地域のイメージアップのために、何かアイデア等ありますか。今回、総合計画で、南部地域活性化をリーディングプロジェクトとしてあげていますが、何かイメージアップのためのご意見等があればいただけますか。

**FM千里**

南部に新たにラジオ局を作るのではなく、FM千里のサテライトスタジオを作っても面白いと思います。電波の関係上、聴こえにくいところはあるかもしれませんが、豊南市場にサテライトスタジオを作ることによって、南部地域の情報を発信しても良いかもしれません。もちろん費用の問題があるので、簡単ではないと思いますが、アイデアとしては面白いと思います。

**部会長**

コストは結構かかりますか。

**FM千里**

スタジオを作ってマイクを置いて機材を用意しないといけませんので、かかるかと思います。

**委員**

調整室のようなものも必要になってきますか。

**FM千里**

スペース的には机1つで十分ですが、電話回線を引かなくては行けませんので、少しお金がかかります。ただ、環境さえ整えれば、簡単にそこから発信することは可能です。オンライン通話

などのサービスを使えば、無線 LAN でも対応ができますが、電波状況によっては音声がかかる可能性もあります。

**委員**

FM 千里のサテライトということは、南部地域の方は聴けませんか。

**FM千里**

サテライトで放送している時は、聴けます。

**委員**

やはり、南部地域等にも FM が入るようになるのが一番良いと思います。

**部会長**

ここからは、自由に議論ができればと思っています。各団体の皆さんからは総合計画に求めたいことを言っただき、委員の皆さんからは各団体の皆さんに聞きたいことを自由に聞いていただければと思います。

**委員**

FM千里さんに、スポンサーを集める立場として、豊中市のビジネスの状況はどんなふうに見えていますか。

**FM千里**

営業にまわりますが、コミュニティ FM ですので、千里ニュータウンの企業、特にセルシーやせんちゅうパルに入っておられる企業が中心になります。エリア限定的なことしか言えませんが、やはり、セルシーの件もあり、千里中央に人が集まらなくなるとは困るということで、千里中央をどうしていくか、活性化に向けた取組みを検討されています。

**委員**

ビジネス環境は、厳しくなっていると言えるのかもしれませんが。

**FM千里**

これまでお客さんが集まっていたところに穴が空いてしまうかたちですし、北大阪急行の延伸もあり、千里中央の乗降客が 2 割くらい減ると予想されています。また、モノレールの乗り換えだけだと、南側しか利用されなくなるのではないかという予想もされています。そうすると北側はますます人がいなくなりますし、近辺の企業からはこれからどうしていかと不安の声を聞いています。

**委員**

エキスポシティの影響などもありますか。商圏的には隣接していると思いますが、エキスポシティで買い物をして、千里中央では買い物はしないような人も増えたりしますか。

**FM千里**

今まで当たり前のように千里中央に来ていた人が、分散していると聞いています。

**部会長**

千里中央の再開発の推進も、必要かもしれません。

**委員**

前期では南部を、後期では北部をリーディングにする必要があるかもしれません。

らっふ

豊中市では外国の人を呼び込むと言っても、なかなか豊中市を目的には来てもらえない、そういうまちだと思います。市民活動団体も行政もいろいろと活動をされていますが、豊中市には観光課的な部署がありません。観光課が必要かどうかはおいておき、現状、豊中市の全体的なイメージを発信していくことができない体制になっているように思います。

部会長

豊中市の場合ですと、魅力創造課がそれにあたると思います。

らっふ

魅力創造課とは深いお付き合いをさせていただいていますので、どんなことをされているかというのは分かっていますが、そういう体制にはないと感じています。例えば、魅力創造課で音楽系のイベントをする場合、文化芸術課もありますし、高校生のダンスのイベントをするといった場合には、教育委員会やこども関連の部署もあり、同じようなものが何個もできることとなります。魅力創造課がきちんと横串をさせていないということではないとは思いますが、観光というひとつの括りの中で、横串をさせるような体制の構築が必要ではないかと思います。地域活動をして20年、25年経ちますが、ずっと豊中で活動している人間として、次の総合計画の中には明確に位置づけるようなことがあっても良いのではないかと考えています。

部会長

1つのイベントに対して、いくつかの部署が絡んできて、それぞれに予算を持っている。それを上手く使えば良いのですが、実際は互いに足を引っ張り合っている状況もあるということだと思いますが、このご意見に対して、いかがですか。

委員

魅力創造課ができて、魅力創造課が一举に引き受けて包括的に担当しているので、縦割りがなくなると豊中市から聞いていますがどうですか。

らっふ

市民活動団体からはそうは見えていません。庁内には依然として縦割り構造が残っていると感じます。イメージ的には、魅力創造課という太い縦の柱ができたという感じを持っています。

委員

北摂の商工会議所が集まって会議をすることがありますが、北摂で観光がないのは豊中市だけだということを聞いています。観光資源は豊中市にもありますが、包括的に扱う課がないあるいは扱えていないというのは少しおかしいように思います。

委員

私の専門は行政学、地方自治なので、今のご指摘はよく理解しているつもりです。役所の中で働いているわけではないので、豊中市の実態は分かりませんが、そういう話はよく聞きます。

10年くらい前から各地で、映画等の撮影場所誘致や道路や公共施設の使用許可などを取ったりして撮影支援をワンストップで行う部署として、フィルムコミッションが立ち上がっています。日本では茨城県が先進的なのですが、日本国内でもどんどんその動きが拡大しています。もともとはアメリカのニューヨークあたりから始まったのではないかとと思いますが、アメリカの大きい都市ではだいたいフィルムプロモーションオフィスというのがあります。こういう類似事例がありますから、観光においてもワンストップでできるはずですよ。

現実問題としてお金の流れがあって、各省庁からでている関係上、縦割りになってしまうという側面はあるとは思いますが、それは市民にとっては関係のないことなので、役所の中で束ねて、正しい方向性に進んでいくことが重要です。現実的にそうならないのであれば、基本計画の中に市民にも分かるかたちで、ワンストップで行政マネジメントをしていくということを書いて良いかもしれません。

## 市民環境会議アジェンダ 21

2点あります。

まず、「地球温暖化対策」について先ほど話をしたことは違う視点から発言させていただきたいと思います。地球温暖化に関して、豊中市の場合は高速道路が多いので、通過交通も問題になっています。要は豊中市内の高速道路を走ることによって豊中市内に温室効果ガスが排出されているわけです。ただその把握は以前から難しいと言われていて、現状把握ができないために対策も講じられないということで、豊中市は通過交通対策を諦めている現状です。基本計画に関連して言いますと、環境以外のところ、例えば、交通施策の部分にも渋滞や違法駐車だけでなく、通過交通についての記述があっても良いように思います。また、省エネに関しても、住宅そのものの環境性能を高めるという動きもありますので、住環境にも関連してきます。環境問題というのはなにも3-1や3-2だけに関わらず、横断的に関わってくるのですが、そのあたりがうまく表現できていないように感じます。

以前、環境は単独の章であったのですが、今回はそういう構成にはなっていません。環境を柱に据えないのであれば、環境については章を横断しながら、色んな箇所に要素を盛り込んでいってはどうかと思います。

もう1つは南部地域の活性化についてです。先ほど、緑の量について発言させていただきましたが、実は緑の量で言えば、豊中市内において南部が一番、緑が少ないというデータがあります。南部地域でも家の庭先などで、プランターで植物を育てられていたりするところもいっぱいありますが、千里などに比べると、緑の量は少ない状況です。リーディングプロジェクトの「主な取組み」で南部地域の活性化等を目指していかれるのであれば、その一環として、南部地域の緑の量や質についても増やしていくということも盛り込んでいただければと思います。また、南部には大きな公園もありませんので、小学校の跡地などを活用して緑を増やすということも検討いただければと思います。小学校の跡地に民間の工場などができれば、今よりも緑が減ってしまうことになりかねませんので、そういったことも含めて、書き加えていただければと思います。

### 部会長

関連してお伺いしたいのですが、最近では省エネのまちづくりに関する制度もいくつか出てきていますが、省エネなどはデータを集めないことにはその効果が示せないわけです。今回の総合計画では「市民・事業者の主な取組み」を掲げています。省エネに関して、プライベートな個人情報などをモニタリングして蓄積してくということは可能性としてありますか。

## 市民環境会議アジェンダ 21

可能性はあると思います。われわれも豊中市と協働で事業を行っており、その一環として、市民の方から省エネに関連するデータを提供してもらっています。それを拡大して、特定の地域で一斉にやってみるということは可能かと思います。技術的にもスマートメーターなどもありますし、市民の協力が得られれば、できなくはないと思います。

### 部会長

地域や町など、面としてそういう取組みができれば、スマートシティということになるのかもしれませんが、面的なモニタリングの可能性があるということであれば、総合計画に盛り込むことも検討できるかもしれません。

各団体の皆さんからいただいたご意見等は、各委員が責任を持って反映します。本日はありがとうございました。

## ●「2. その他」

### 事務局

(今後のスケジュールの確認)

### 部会長

これもちまして、豊中市総合計画審議会第1回第2部会を終了します。

●閉会

## 会 議 録

会議の名称	豊中市総合計画審議会 第2回 第2専門部会		
開催日時	平成29年（2017年）2月23日（木） 18時00分～20時00分		
開催場所	第二庁舎3階 大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	政策企画部 企画調整課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	加藤委員、國定委員、宗前委員、廣瀬（史）委員	
	事務局	足立部長、福山次長兼課長、糸井主幹、榎本主幹、佐野副主幹、上野	
	その他		
議題	1. 前回のふりかえりについて 2. 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（審議） 3. その他		
審議等の概要 （主な発言要旨）	別紙のとおり		

## 平成 28 年度 豊中市総合計画審議会 第 2 回第 2 専門部会 議事要旨（案）

日 時	平成 29 年（2017 年）2 月 23 日（木）18 時～20 時
場 所	豊中市役所第二庁舎 3 階大会議室
出席者	加藤委員、國貞委員、宗前委員、廣瀬(史)委員 計 4 名
欠席者	赤井委員 計 1 名
事務局	政策企画部企画調整課：足立、福山、糸井、榎本、佐野、上野
傍聴者	0 名
案 件	1. 前回のふりかえりについて 2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（審議） 3. その他
資 料	○【資料 1】平成 28 年度豊中市総合計画審議会 第 1 回第 2 専門部会議事要旨（案） ＜第 4 回総合計画審議会の資料＞ ○【資料 2】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案） ○【資料 3】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）施策の括り ○【資料 4】総合計画等調査特別委員会における「第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）」への意見について ＜第 1 回第 2 専門部会の資料＞ ○【資料 1】市民活動団体調査結果一覧表
会 議 録	下記のとおり

### ●開会

### ●成立要件の確認

事務局

部会員総数 5 名中 4 名の方にご出席しているので、成立要件を満たしています。

### ●資料について

事務局

（資料について説明）

### ●「1. 前回のふりかえりについて」

### ●「2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について」

部会長

本日は、前回の市民活動団体等の意見を踏まえながら、論点を整理していただき、前期基本計画（素案）についてご意見をいただければと思います。

委員

基本計画の 17 施策に対して、分野別計画があるものと、ないものを教えていただきたいと思います。特に、5 章や施策「4-2 市民文化の創造」は、どのような分野別計画があるのか、あるいは関係しそうな計画があるのか教えていただければと思います。

趣旨としては、総合計画でどこまで書き込む方がよいのかという点で、分野別計画があるものは、総合計画では抽象的な書き方でも分野別計画に書き込んでいくことが可能ですが、例えば、参画・協働のような分野別計画がないものは、総合計画で取組みますと記載しても受け皿がなく、後で何もしないこ

とになるのではないかと思います。分野別計画と総合計画の関係性において、どこまで書き込むのかの区切りを知りたいと思いました。

#### 事務局

まず、施策「4-2 市民文化の創造」は、「文化芸術推進プラン」などがあります。また、施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」では、「行財政運営方針」、「コミュニティ基本方針」、「豊中ブランド戦略」などがあります。参画・協働については、「自治基本条例」があります。

#### 部会長

魅力創造が、施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」にあることについて、ここで実際に施策が実施できるか心配します。シティプロモーションは、もっと予算をつけて具体的に専門的にまちづくりとして施策を打っていきべき段階に来ていると思います。基本計画（素案）の本文を見ると、住んでいる方が“わがまち意識”を持てるように啓発していくと読めます。それは魅力創造の一面ではありますが、最近では、外部の人に選んでもらうという視点が必要で、情報発信等、施策を進めていく必要があるのではないかと思います。その中で、括りとして、地元の住んでいる人への魅力創造で終わっていることが心配です。

#### 委員

3章か4章に入れる方がよいということですか。4章の総論ということになるのかもしれませんが。

#### 部会長

魅力創造課ができる前、とよなか都市創造研究所が特集された雑誌で、魅力創造とは外部をターゲットとしていたと思います。この計画では、内部の住民を対象とするのですか。

#### 事務局

現在、ブランド戦略においては、東京圏の子育て世帯へのプロモーションなども展開しています。転勤世帯などに向けて「転勤して住むなら豊中」といった冊子をつくり、不動産業者や企業へ配布、アピールも進めています。ご意見のとおり、外へ向けての発信も大きな柱です。

#### 部会長

主な取組み「シティプロモーションの推進」の本文が、「～愛着を育みます。」となっていることについて、それでよいのかと思っています。「関心を高めて住んでもらう」ような表現の方がよいのではないかと思います。また、先ほども言いましたが、魅力創造が施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」で、財政に関する施策と同じところに入っていることが気になります。ここに入ると、税金を納める人（タックスペイできる人）を増やしていくという面から書かれることが多いかと思います。魅力創造課は、どこの部署になりますか。

#### 事務局

都市活力部で、文化芸術や産業振興などを担当する部署です。庁内の議論でも、3章がよいのか4章がよいのかと議論をしてきた経緯があり、最終的に、どの施策にも魅力発信を意識していくことで、5章に位置付けています。魅力発信は目的ではなく、手段であるという考え方で整理をしてきました。

#### 委員

要は、プラットフォームだと思います。考え方はよいと思いますが、施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」において、他が、ガバナンスや施設集約のどちらか言えばスマートマネーの内容、節約しながらうまく使うといった内容に、魅力を高める内容があります。あってもおかしくはないのですが、実際に動き出すと行革の内容と受け止められるのではないかと感じます。中和剤といいますか、シビアな内容の中にあって、魅力創造の取組みが実際には動かないのではないかと懸念が生じると思います。シティプロモーションを前面に出していく方法がないものかと考えます。

全般的に悩ましいと感じますので、目次の構成が具体的に結果を出していく、あるいは結果を検証していくようになっている一方で、例えば市民活動団体との連携など、どこの分野にも引っかからないよ

うな戦略性が薄くなっているのではないかという気がします。団体からの意見もそういったところから出てきているのではないかと思います。ただ全部取り上げるのは難しいと感じています。例えば、各章の最初に、総括の表現を入れるとよいと思います。今の構成を崩さずに、ご意見を取り入れるのであれば、各章にサマリーをいれる方法はあると思います。5章であれば、そこに「これは税金対策だけの話ではなく、今住んでいる人だけでなく、これから住む人に向けてのことも書いてある」といったことを表現するという方法はあると思います。

#### 事務局

冊子としては、基本計画の前段に基本構想を入れて1つの冊子にしたいと考えています。基本構想には、基本的な考え方、各章のサマリー的なものなどを示しています。しかし、現後期基本計画は、基本構想があつての施策の見直しなので、改めてサマリー的なものを入れた構成にしています。

現後期基本計画も、基本構想と同じ文章を、基本計画の各章の頭に入れるというつくりとなっています。同じような取りまとめ方も考えられるかと思っています。

#### 委員

市民には、全てを通してでは分かりにくいので、基本構想に掲載している内容でも基本計画に入れて、分かりやすくした方がよいと思います。

#### 委員

理念なので、つくりとして大事に扱った方がよいと考えます。章全体がなぜこういった作り方をされているのか、どういった考え方で章を構成しているのかを示すとよいと思います。

#### 部会長

繰り返しになりますが、施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」の現状と課題の3段落めの「さらに～」が、付け足しのように気になります。豊中市民に常住者としてウェルカムであるというメッセージは示されていますが、都市魅力創造は、転出する人、新しく転入する人が対象なので、もう少し説明しないと、今のままの文脈では伝わらないと思います。新しいテーマなので、どこで取り扱うか難しいのはわかりますが、この5年間の中で、もう少し大きく位置付けてもいいのではないかと思います。1章から4章は予算措置がはっきりしています。そういった財源がはっきりしているところに位置付けてもよいと考えます。現在、施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」が、予算をつけにくい表現でコストカットの方向になっているので、魅力拡大のために投資していくことが、文脈で書きづらい点ではないかと思っています。担当部署とも相談し、前文をもう少し考えてほしいと思います。

#### 事務局

担当課と相談しての結果ですが、再検討します。

#### 部会長

市民活動団体から緑被率の意見がありましたが、緑についてはいかがですか。

#### 委員

団体の意見では、緑の量は増えているが種類が減っており、緑の質が下がっているので、緑の質を高める取組みが必要ではないかのご指摘だったと思います。例えば、施策「3-1 快適な都市環境の保全・創造」の主な取組み「都市緑化の推進」の中に、そういった戦略が出てくるきっかけが総合計画にないというご指摘ではないかと思っています。分野別計画で具体的に書いていくことかと思いますが、総合計画にあって、それを受けて分野別計画で緑の多様性を高めましたというストーリーにしたいのではないかと思っています。

#### 事務局

担当課に確認したところ、現在、環境審議会において生物多様性の戦略づくりが議論されているところのようです。都道府県は策定義務があるようですが、市町村においては努力義務という位置付けになっており、つくるか、つくりなしかを議論されているところですので、その動向をみながら、総合計画

に反映したほうがいいのではないかと思います。

#### 部会長

そちらの議論の動向をみていただくことでお願いします。豊中市で緑の質の問題で取り組めるとすれば、「緑視率」ぐらいではないですか。大阪府ぐらいであれば多様性の方策もたてられるかと思いますが、市域だけでは面積が狭く、またすべて市街化区域の中で、生産的な議論にならないのではないかと感じます。

#### 委員

市民活動団体から意見が出ていたと思いますが、観光の点について、もう少しふれてもよいのではないですか。現在、文言としてどこにも出てきていないので、例えば「観光にも力を入れて、豊中ブランドをPRする」など、大きな流れの中で一文あった方がよいのではないかと思います。観光という視点での取組みが、まちおこし、産業振興、また国際化にもつながっていくのではないかと思います。

#### 事務局

観光に関する取組みはこれまで長らくありませんでしたが、近年、民間の旅行会社とタイアップしてバスツアーを行ったり、千里ニュータウンへの視察に対応するための観光冊子を作ったりしています。

#### 部会長

住宅都市だと、観光に取り組むことが恐くなってしまふのかもしれませんが。施策「3-4 良好な住環境の形成」の主な取組み「大阪国際空港を活かしたまちづくりの推進」の点からも、空港を利用している方はほとんど市民ではないので、観光を意識したまちづくりを進める方がよいと思います。

#### 委員

空港を活用した取組みとして以前行ったのが、就航都市との連携で、獲れたての魚を空輸してもらい豊中市民が新鮮な魚を食べられるというもので大人気でした。しかし、プロの業者が来る場になったりして、現在はしていませんが、この考え方と同じで、豊中にあるものを活かすといったものです。

豊中市には音大があり、その前の通りを「音大通り」としています。しかし名前だけで何もないので、例えば、ここに楽器を持ってくれば修理ができるといった企業誘致を考えられます。前回、団体との意見交換で豊南市場をインバウンドとして活用してはどうかという意見がありましたが、それもひとつだと思います。よそにはない資源を活かすという視点で考えることが大切だと思います。音大があるというのは、他にない資源なので、活かしてはどうかと思います。また、音大の先生との話で、学生の発表する場がないとのことで、大阪国際空港のロビーにステージを作って発表しています。しかし、音がアナウンスの妨げにならないようにしないといけないので、20時以降の発表となっていますがリピーター、ファンがいるようです。セミプロも一緒にやっているのです、そういった取組みをもっと市民に広げていくとよいと思います。どうも一部の人のとどまってしまうっており、宣伝、PRの仕方をもっと考えたほうがよいと思います。

実際に形を見せていくことが大切で、南部地域の活性化は大賛成です。何かひとつ、実際にすることができるとよいと思います。楽器の修理は、今、ヨーロッパに出しているとのことですが、それが豊中市の音大通りにいけば、全部修理できるとなれば、ひとつの特徴になると思います。地域の資源は歴史だけでなく、これから未来に向けた観光、例えば体験できる場所、ものづくりなど体験型の観光などをつくっていくとおもしろいと思います。今もいろいろされており、豊中の特徴は何かをずっと考えていますが、どうも南部にネタ、種がありそうな気がしています。

#### 部会長

魅力創造、観光は、イベント等のソフト政策と、まちづくりのハード政策といった二面性があると思います。今のインバウンドは、まちづくりの方で、まちづくりのビジョンがあるから、観光をどう使いたいかということになるのだと思います。

万博をレガシーとして残せたのは大阪だけだそうです。千里という偉大なるレガシーを残しています。愛知万博も環境問題で、いくらトヨタの地盤でまちづくりができたということですが、そういった例は世界であまりなく、評価されているというお話を聞きました。まちづくりが最終目標であってこ

そ、観光も意味があり、観光もまちづくりで、イベントだけでは意味がないということではないかと考えます。シティプロモーションがソフト施策だけで終わらないようにしてもらいたいと考えます。南部地域活性化プロジェクトで観光という文言を入れることも考えらるので検討してください。

#### 委員

観光を推進していく上で、実際に市がお金を出してイベントをどんどん実施していくのには限りがあります。これまで何もなかったまちに人が多く来るようになっており、インバウンドの風向きはいつ変わるかわからないというのが正直な思いです。つまり、市が観光を推進していく時にできることは、いかに情報をすいあげていくかということと、それをどうアレンジしていくかということと考えます。市内で、誰がどこでどういう取組みをしているかを把握し、それを少しだけ後押しするという関係ができれば、それは単に観光というよりも、市民活動団体、市、中間支援団体のきれいな関係ができていることを意味するのだと思います。観光客を呼ぶ、市の魅力を高めていくといった時に、ツールとして観光自体も目標にはなるとは思いますが、もう一つは、施策「5-1 情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」に関わりますが、いろいろな人と手をたずさえながら進んでいくまちづくりを実現していく時に、いろいろな人たちと絡める市政である、市役所機構であるということは大事なことであると思います。

#### 部会長

観光という文言について議論がありましたので、検討してください。

#### 委員

施策「3-4 良好な住環境の形成」の主な取組みに「千里中央駅周辺の活性化」がありますが、書きぶりはこれでいいのですか。

#### 事務局

官民で協議の場をもっていこうという話で、どういうアウトプットになるかはまだ見えていない状況です。平成 32 年度には北大阪急行の延伸があり、千里中央の新たな魅力を打ち出していくのが、この 5 年間のテーマだと考えています。市内ではバス交通の変更などの検討事項もありますが、もう少し大きな視点で、例えば、第 2 名神ができて南部からつながるようになる、なにわ筋線ができて関空から千里中央までつながり、さらに大阪国際空港とも横でつながっているといった、逆に立地が増えていく中で、千里中央という拠点をどう作っていくかが主な取組みになるかと思っています。

#### 部会長

ご指摘は、もう少し強く書いておいた方がよいということではないですか。

#### 委員

千里中央から人が減っていかないように、力を入れる姿勢をもう少し書き込んでよいと思います。

#### 部会長

10 年ほど前、大阪府が区域全体の副都心都市構造のようなものを作られた時の議論で、千里中央から萱野が副都心として、丸（点）ではなく線（面）で表現されていました。千里中央と萱野の間がハブ機能を持つということでした。北のほうの活性化に大阪市、豊中市が手を貸すといった状況に感じました。豊中市として、千里中央駅周辺の活性化をどうするのかということです。桃山台あるいは東西軸のほうに都市核の活性化を考え、力を入れた方が豊中市としてはいいということかもしれません。施策の括りとして、主な取組みの「千里中央駅周辺の活性化」が施策「3-4 良好な住環境の形成」に含まれるのか、もう少し大きな問題ではないかという気がします。

#### 事務局

施策の名称を考える必要があるかもしれません。

#### 委員

慣れていない人が聞くイメージと、本来狙っている趣旨との間に若干かい離があるかもしれません。おそらく住んでいる住民にとっての環境といったニュアンスで住環境としているかと思いますが、一般的には住環境というと5m～10m範囲ぐらいの家の周りのイメージ、ごみ捨て場がきれいか、近くに公園があるか、段差がない環境かどうかなどのイメージだと思います。

#### 部会長

施策名称が小さすぎるということだと思います。施策の方向性には、都市拠点等が入っていますので、「都市魅力」も組み込んで施策の名称を検討いただいた方がよいかもしれません。

#### 委員

施策名を平たく書こう、一般の市民が見た時に分かるようにというのはよく分かりますが、住環境という逆と違うイメージが与えられるのではないかとことです。これまで大多数の住民にとっての環境が住環境だったということかもしれませんが、一般的に住環境という表現でイメージされることが違うので、ミスリーディングになってしまうと思います。住まいのレベルの話だけではないので、表現を検討していただいた方がよいと思います。

#### 部会長

施策名の「良好な～」は少し足りないかもしれませんので、例えば「魅力的で良好な～」とする、また、大きなコンセプトが「みらい創造都市」なので、これまでの住宅都市としての住環境をこのまま引きずっていくということではないので、「創造的な～」といった表現にすることも考えられるかもしれません。都市の拠点づくりを包含するような表現を検討してみてください。

#### 委員

サブタイトルはこのままでいいかもしれません。住宅という話に限定しないようにしたほうがよいと思います。個々の住宅は各オーナーになりますが、都市環境はその集合体で、行政の出番だと思いますので、これは大事な話かと思います。一般的には、例えば工場の操業環境との騒音の話、日影などの話が住環境と捉えられるかと思います。よく読めば、それらを含めマクロな話をしているのがわかりますが、住環境といった時には限定されたイメージになるので、気をつけたほうがよいと思います。

#### 部会長

表現をシンプルにすると、どうしてもこういった問題が出てきます。豊中市が高次都市機能を持つのか持たないのかという大きな戦略に関わります。千里中央の話となると、都市拠点という話になるので、表現を検討してください。

#### 委員

今まで終点だった駅が延伸で終点でなくなったために、だめになってしまった事例はありますか。

#### 部会長

東京の場合は、だいたい再開発をします。延伸先で開発し、沿線の乗降客数が増える見込みで延伸しますが、今回は増える要因がない延伸となるので、ゼロサムゲームとなってしまいますので、再開発をして内容で勝負をする必要があります。目的をもって来てもらえるようにしないとイケません。乗降客は、2割減という数字がはじかれています。千里中央地区活性化ビジョンがあると思いますが、それがとまっているのではないですか。

また、施策「5-1 情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」の内容は、これでよろしいか。ネットワークに関わる意見が第1専門部会ででています。福祉において、地縁型とテーマ型の緩やかな連携をとれるようにすることが求められていますが、誰がコーディネートするのかといった問題がでていました。福祉だけでなく全体的な話として広げて、豊中市における協働・参画を書き込むのかということがあります。豊中市には、NPO政策はありますか。神戸市などは「プラットフォーム課」というのがあり、認定団体の情報を捉えたり、研修したり、新規事業として予算措置をして公募するなどを行われています。地域の活動団体を育てていくための専門部署はありますか。

#### 事務局

本市ではコミュニティ政策課があり、NPOの認証、寄附を募りながら活動の補助などを行っています。コンペ方式で、行政からの課題提示に対する提案と団体からの自由な提案の2つのパターンで事業を進めています。

#### 部会長

主な取組み「地域自治組織の設立および活動支援」は、こういった方向で進めようとしているのか、今後地域自治組織の数を増やしていこうとしているのか。

#### 事務局

既に制度があり取組みを進めています。41校区中7地域で地域自治組織が設立しており、2地域で設立に向けて検討が進められています。

#### 部会長

一般的には、活動支援だけでなく活動の促進という文言が入ってきます。促進がつくと、それに対する予算がつきますが、つかない場合、行政は制度を待っているだけでよいということになります。

#### 事務局

地域自治推進条例により進めています。

#### 部会長

本日の意見は、事務局で整理して5月に答申案を示しいただきたいと思います。

#### 事務局

1点、ご意見をいただきたい点があります。前回の市民活動団体との意見交換でコミュニティビジネス(CB)、ソーシャルビジネス(SB)の話がでており、これから行政だけでは届かないサービスを地域の力を借りていかなければならないことが明らかである一方、少子高齢化の中、地域における担い手も難しくなっており、地域においてもビジネス手法で展開していくことが必要になるというご意見がありました。施策「5-1 情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」で、ビジネス視点での協働が書ききれているのかどうかについて懸念があり、ご意見をいただければと思います。

#### 委員

【資料1】平成28年度豊中市総合計画審議会 第1回第2専門部会議事要旨(案)の9ページ、団体の方からの意見がありました。こういった話は、ブレーキの役割にならなければ書いてもいいのではないかと思います。じゃまにならない書き方をしていれば、やる気になればできるということになります。当事者からすれば、もっと強く書いてほしいという意見は当然あるかと思いますが、ただ、「協働します」と書いてあり、行政だけではできないから、その他の団体を元気にしていきますと書いてあるので、総合計画ではそこに含まれるとしてもいいのではないかと考えます。強いて言えば、主な取組み「市民が主役のまちづくりの推進」の文中の「～継続的に展開できるよう支援します。」の表現かだと思います。団体の方からは、ビジネス手法でやることによってはじめて資金的にも人材的にも回る、善意だけでは限界があり、かといって純然たるビジネスとしてやっていくにはマーケットが小さいといったお話でしたので、例えば、「様々な手立てをふまえて」、または「従来の方法にこだわらず」といった文言を加えるということも考えられるかもしれません。総合計画なのでどこまで書くかはありますが、従来ではお金を稼ぐのに支援はできないというのが公のスタンスであったが、CB・SBという新しい枠組みにおいて、積極的に支援をしていく方向性を示すという考え方もあるかもしれません。

#### 部会長

主な取組み「協働事業の充実」の文中に、入れることも考えられませんか。

事務局

現在、相談対応や利子補給、CB・SBの担い手育成などの取組みは行っております。ただ、この5年間で継続的にビジネスとして行っていくことができるようにしていけるかは見えていないところがあります。国のほうでも、投資家から資金を調達し成果が上がった場合のみ行政が資金を拠出する方法（ソーシャル・インパクト・ボンド）もモデル的に取り組んでいくということもあり、市として、この5年間で具体的に取り組んでいけるのかが難しいかもしれません。

委員

全く新しいスキームで、制度も不安定なので、進捗に関する検証はあまりしなくてもよいのではないかと思います。市は伴走者だと考えます。今は直接手を貸したほうがよいのか、貸さなくてよいのか、マネージメントに問題があり中間組織を支援するほうがよいのかなど、保健師さんのような、直接治療するのではなく、判断する役割だと思います。

部会長

CB・SBの登録はどこにするのですか。任意団体が「やります」といって進めていると思いますが、受益者側からすれば、多様な選択ができるのはよいが、信頼性をランク付けしてほしい、安心感がほしいという思いもあります。CB・SBの推進において、受益者側から行政に期待したい点として、信頼供与があるのではないですか。

委員

クラウドファンディングでも、各事業者の取組みを商工会議所がPRを行います。商工会議所の信頼で投資をしてもらえる面もあります。行政の役割としては難しい点があるだろうと思います。

事務局

もう少し研究したいと思います。

部会長

協働は、概念ではなく仕組みを見せてほしいという思いは市民にあるかもしれません。「協働事業の充実」においては、検討してください。

### ●「3. その他」

事務局

今回の日程は5月12日18時～です。場所は追って連絡します。

部会長

これで第2専門部会を終了します。

### ●閉会

**第4次豊中市総合計画  
前期基本計画(素案)について**

**( 答 申 案 )**

**平成 29 年(2017 年)7月**

**豊中市総合計画審議会**



# 目次

I. 答申にあたって	1
II. 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）への意見	2
III. 審議経過・審議会委員	5

## <参考資料>

- 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）

## Ⅰ. 答申にあたって

豊中市は、少子高齢化の進行やライフスタイルの変化などによる複雑多様化する行政課題に対応するため、「第3次豊中市総合計画」を見直し、新たな総合計画の策定を進めています。

豊中市総合計画審議会は、「第4次豊中市総合計画」の策定に向け、平成28年(2016年)9月20日に、浅利市長から「基本構想(素案)」の諮問を受け、平成29年(2017年)1月31日に答申を行いました。また、同日に、浅利市長から「前期基本計画(素案)」の諮問を受けました。

当審議会では、「前期基本計画(素案)」の審議にあたって、限られた時間の中、集中的に審議するため、2つの専門部会を設置し進めてきました。専門部会では、市内で活発に活動している市民活動団体等の皆さまからアンケートによる意見聴取を行うとともに、一部の団体の皆さまには当日ご参加いただき、豊中市の現状や課題、今後必要な取組みについて意見交換を行いました。

審議においては、基本構想(素案)で答申したまちの将来像「みらい創造都市とよなか ～明日がもっと楽しみなまち～」の実現に向け、平成30年度(2018年度)から5年間で起こりうる社会の動きを考慮して、意見を取りまとめています。

前期基本計画の策定にあたっては、当審議会の意見を十分に踏まえ検討していただくことをお願いするものであります。

平成29年(2017年)7月10日  
豊中市総合計画審議会  
会長 加藤 晃規

## II. 第4次豊中市総合計画前期基本計画(素案)への意見

基本構想(素案)に掲げる「まちの将来像」の実現にあたっては、庁内各部署の連携や市民・事業者など多様な主体との協働と、限られた資源配分で効果的・効率的に施策を展開することが必要です。

当審議会は、平成30年度(2018年度)から5年間で取組む前期基本計画(素案)の施策とリーディングプロジェクトが、「まちの将来像」の実現につながる内容になっているかという視点で調査審議を行いました。

諮問された前期基本計画(素案)は、重点的な取り組みとしてリーディングプロジェクトを置くとともに、多様化・複層化する行政課題に対応するため、施策を整理するなど、時代の変化に対応した計画となっています。

その他の内容について、以下のとおり、審議した結果をとりまとめましたので、意見として申し述べます。

### ◆全体

1	基本構想で示された各章の考え方を、基本計画においても示す必要がある。
2	連携している施策の関係性を示す必要がある。
3	「市民・事業者の主な取り組み」は、市民・事業者のまちづくりへの意識づけにつながっている。

### ◆施策について

1	<b>【1-2 保育・教育の充実】</b> 障害のある子どもの学校におけるケアとして、主な取り組み「ともに学ぶ教育の推進」に保健・福祉との連携の視点が必要である。
2	<b>【2-1 自立生活支援の充実】</b> 本市の地域力・市民力を活かし、市民で支えあいながら生活の自立につなげていく必要がある。

3	<p><b>【2-1 自立生活支援の充実】</b> 福祉の分野において、これまで豊中市が培ってきた日常生活圏域を基盤に推進していく必要がある。</p>
4	<p><b>【2-1 自立生活支援の充実】、【2-2 保健・医療の充実】</b> 福祉・保健・医療が協力・連携して包括的に対応していく視点が必要である。</p>
5	<p><b>【3-4 良好な住環境の形成】</b> 「住環境」が住居周辺のイメージなので、千里中央駅周辺などの都市の拠点づくりを包含する名称にする必要がある。</p>
6	<p><b>【4-1 共に生きる平和なまちづくり】</b> DV被害者の緊急時における対処の視点が必要である。</p>
7	<p><b>【5-1 情報共有・参画・協働に基づくまちづくり】</b> 民間同士の連携や民間団体が活動しやすい環境づくりを支援する必要がある。</p>
8	<p><b>【5-1 情報共有・参画・協働に基づくまちづくり】</b> 市民公益活動団体が活動を継続的に行うためには、資金と人材の充実が必要である。従来の方法にとらわれない支援を市民公益活動団体と協働で推進していく必要がある。</p>
9	<p><b>【5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築】</b> これまで市が市民と接してきた業務を民間が行うようになってきているので、市民ニーズや地域社会の課題に向き合う職員の育成が必要である。</p>
10	<p><b>【5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築】</b> 市外の人が豊中市を選び住んでもらえる取組みが必要である。</p>
11	<p><b>【5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築】</b> 観光という視点でのまちづくりが必要である。</p>

◆リーディングプロジェクトについて

1	建物の老朽化や人口の流出など客観的データによる分析が必要である。
2	南部地域の人口減少の要因分析を十分に踏まえる必要がある。
3	南部地域限定の取組みを示す必要がある。
4	リーディングプロジェクトを着実に進めていく庁内体制を検討する必要がある。

### Ⅲ. 審議経過・審議会委員

#### ◆ 審議経過

回	開催日程	内 容
第4回 総合計画審議会	平成29年(2017年) 1月31日(火)	第4次総合計画前期基本計画(素案)の諮問 ・第4次総合計画前期基本計画(素案)の構成とリーディングプロジェクトの審議
第1回 第2専門部会	2月9日(木)	・第4次総合計画前期基本計画(素案)の第3章、第5章に係る市民活動団体等との意見交換
第1回 第1専門部会	2月11日(土)	・第4次総合計画前期基本計画(素案)の第1章、第2章、第4章に係る市民活動団体等との意見交換
第2回 第1専門部会	2月21日(火)	・第4次総合計画前期基本計画(素案)の第1章、第2章、第4章の審議
第2回 第2専門部会	2月23日(木)	・第4次総合計画前期基本計画(素案)の第3章、第5章の審議
平成29年度 第1回 総合計画審議会	5月12日(金)	・第4次総合計画前期基本計画(素案)の審議 ・答申案について

※平成28年度第1回～第3回は第4次総合計画基本構想(素案)の審議

◆ 審議会委員

会長◎・職務代理者○（区分順・敬称略）

	区分	所属等	名前	専門部会
1	学識経験者	関西学院大学 名誉教授	◎ 加藤 晃規	部会長
2		関西大学文学部教育文化専修教授	○ 赤尾 勝己	第1
3		大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授	赤井 伸郎	第2
4		豊中商工会議所 名誉会頭	國貞 眞司	第2
5		大阪大学大学院 人間科学研究科 教授	斉藤 弥生	第1
6		関西学院大学総合政策学部 准教授	宗前 清貞	第2
7	公募市民		大澤 嘉騎	第1
8			廣瀬 淳	第1
9			廣瀬 史朗	第2

※専門部会の部会長は、豊中市総合計画審議会規則第8条第3項に基づき会長となる。